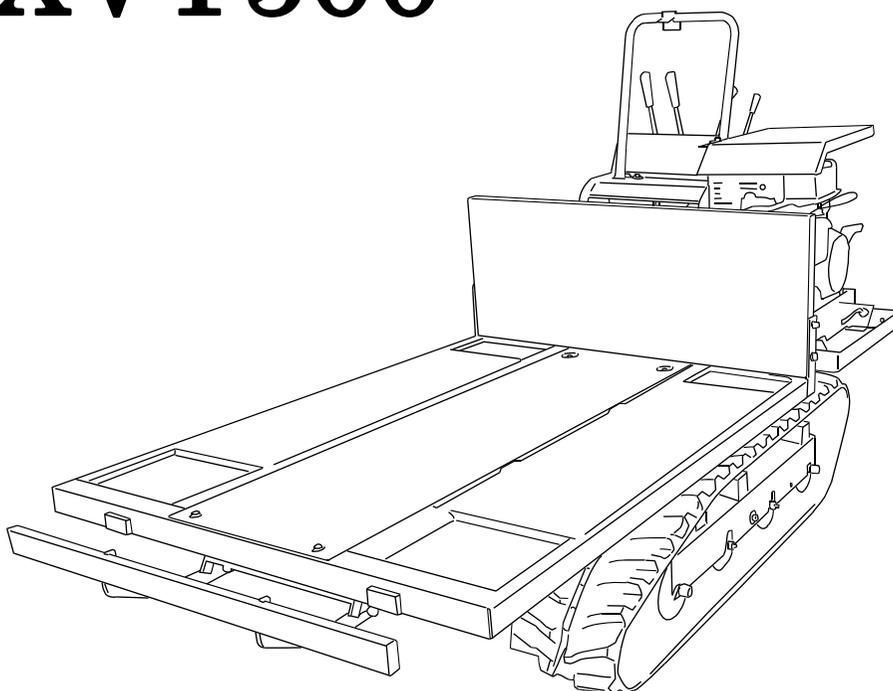


クローラ型コンテナ運搬車

取扱説明書

XVT500



ご注意

- ◆この取扱説明書をよくお読みになり、記載内容を十分理解してください。
- ◆記載内容を十分理解してから、本機の取り扱いを開始してください。
- ◆この取扱説明書を読み終えた後も、必要なときにすぐに参照できるように本機の近くに保管してください。

重要安全ポイントについて

1. 運行前には必ず始業点検を行ない、特に重要な保安部品（例：ブレーキ）は、確実に整備します。

2. 路肩、軟弱地、傾斜地で使用するときは、転落・転倒しないように十分注意します。

3. 運転時は、急発進、急停止、急旋回などの急操作は避けます。

4. 空荷（無積載）で移動するときは、降車します。

5. 坂道を走行するときは、降車します。また、Uターンを避けます。

6. 運転・作業をするときは、保護カバーや配線の被覆キャップが取り付けられていることを確認します。

7. 機械の清掃、点検・整備、燃料を給油するときは、必ずエンジンを停止させ、車体が停車していることを確認します。

8. 積荷はバランス良く積み込み、最大積載量以下であることを確認します。

9. 補助者と共同作業を行なうときは、合図にて安全を確認します。

本製品をお使いになるときは復唱してください。

上記内容は、安全に作業していただくために守っていただきたい重要な事項です。この他にも、守っていただきたい注意事項を本文中に **⚠️重要** の記号を表示して説明しております。よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願いいたします。

重要なお知らせ

- このたびは、本製品をお買いあげいただきまして、まことにありがとうございます。
- この取扱説明書（以下「本書」と略す）は、本製品をご使用いただく際に守っていただきたい安全作業に関する基本的事項、および適正な状態でご使用いただくための正しい運転、点検・整備に関する技術的事項、その他の事項について説明しております。
- 本製品を初めてご使用される際、また、日頃の運転や取り扱い前にも本書を熟読していただき、十分理解されたうえで事前確認および安全な作業を心がけてください。
- 本書は、いつでも取り出して読むことができるよう大切に保管してください。
- 本書の紛失または損傷された場合は、すみやかに「お買いあげ先」にご注文ください。
- 本商品は、コンテナ運搬車として使用してください。
傷害事故の発生を避けるため、本来の使用目的以外の作業や本書に述べている以外の運転・保守作業は行なわないでください。また、改造も行なわないでください。
※改造や使用目的以外の作業に使用した場合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください（詳細は、保証書をご確認ください）。
- 株式会社アテックス（以下「当社」と略す）は、本書記載の指示事項を守らなかったり、本機を改造したり、あるいは運転・保守作業にあたり、通常必要とされる注意または用心をしないうちに生じた損害および傷害に対しては、一切責任を負いません。
- 本製品の取扱上の危険について、すべての状況を予測することはできません。したがって、本書の記載事項や本機に表示してある注意事項は、すべての危険を想定しているわけではありません。
本機の操作、または日常の点検を行なう際は、本書の記載事項や本機に表示してある注意事項に限らず、事故防止対策に関する十分な配慮が必要です。
- 本製品の性能、故障および耐久性は、それ自身の設計の良否、使用材料の適否および製作技術の巧拙によることはいまでもありませんが、他方、日常の取り扱い、点検・整備いかによることも、また看過できません。本書記載事項に従って、確実な取り扱いを行なってください。

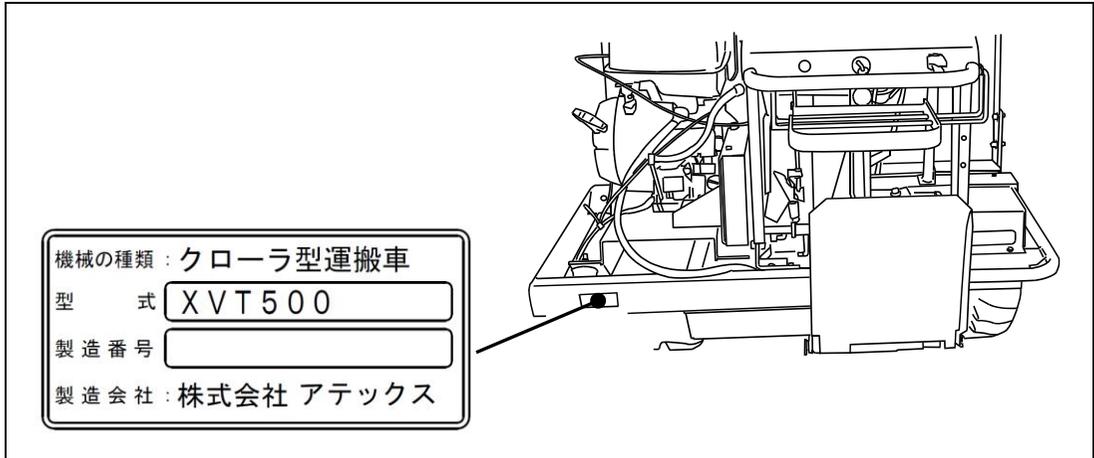
重要なお知らせ

- 本製品は、国内での使用を前提としています。したがって、海外諸国での安全規格の適用・認定などは実施しておりません。本製品を国外へ持ち出した場合に、当該国での使用に対し、事故などによる補償の問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。
- 本製品の貸与または譲渡される場合は、相手の方に本書の内容を十分理解していただくとともに、本書をお渡しくください。譲渡（または転売）される場合は、必ず譲渡先を当社へご連絡ください。また、添付されているすべてのものを譲渡し、譲渡（または転売）した側は一切の複製物を保持しないでください。
- 本書の内容は、当社の運搬車の改良のため、予告なしに変更する場合があります。
- 本製品と本書のイラストとが異なる場合があります。また、イラストの一部は本製品の説明を容易にするために、省略している部分があります。あらかじめご了承ください。
- 本書は著作権を有します。
本書の全体、もしくは部分的にも当社の事前の文書による同意なしに、複写、コピー、翻訳はしないでください。また、読み取りできるいかなる電子装置や機械にも転写しないでください。
- さらに詳しい情報を必要とする場合やご質問がある場合、または内容にご不明点がありましたら、「お問い合わせ先」にお問い合わせください。

型式について

お買いあげいただいた運搬車の型式名を車体に貼付してある銘板にて確認してください。

■銘板の位置



■型式と仕様

機 種 型 式	仕 様
XVT500	<ul style="list-style-type: none">・最大積載量：500kg・コンテナ運搬車（フォークリフト作業対応）・リコイルスタータ、セルモータ 併用

警告表示について

本書の中の  **重要** の表示は、下記のような安全上、取扱上の重要なことを示しております。よくお読みいただき、必ず守ってください。

表 示	重要度（危害や損害の程度と取り扱い）
 危険	その指示に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しております。
 警告	その指示に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しております。
 注意	その指示に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示しております。
 重要	商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。

注意

- 本製品は圃場内作業車であるため、公道および公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故および違反につきましては、責任を負いかねます。
- 本製品は農業用の運搬車です。それ以外の用途では使用しないでください。

目次

重要なお知らせ	i ~ ii
型式について	iii
警告表示について	iv
目次	v ~ vi
安全のポイント	1~21
安全な作業をするために	1~17
安全表示ラベルについて	18~21
保証とサービス	22
各部の名称とはたらき	23~30
各部の名称	23
スイッチおよび操作レバーの名称とはたらき	24~27
非常停止装置の名称とはたらき	28
その他部品の名称とはたらき	29~30
運転前の準備	31~32
運転前の点検について	31~32
運転のしかた	33~48
エンジンの始動と停止のしかた	33~37
走行のしかた	38~45
積載要領	46~48
点検のしかた	49~64
点検・整備	49~59
各部の調整	60~64
手入れと格納	65~66
不調時の対応のしかた	67~70
サービス資料	71~75
主要諸元	71~72
外観図	73
配線図	74
注文部品の紹介	75

目次

主な消耗部品 75

索引

. 76~77

安全のポイント

安全な作業をするために

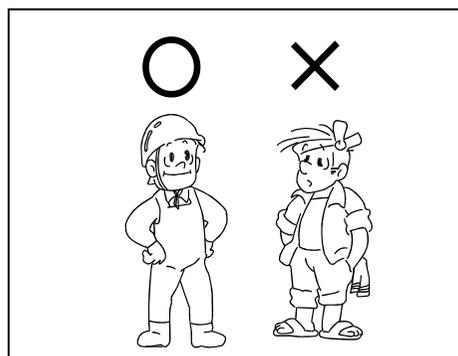
本章では、本機を効率良く安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。よくお読みいただき、十分理解されたうえで安全な作業を行なってください。

■運転者の条件

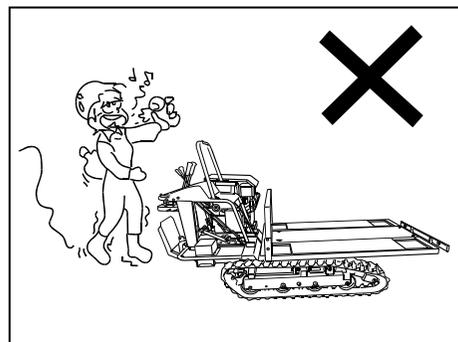
- (1) 本書をよくお読みください。



- (2) 服装は作業に適したものを着用してください。ゆとりのある衣服は、回転部に巻き込まれたり、不適切な靴はつまずいたり滑ったりして大変危険です。また、ヘルメット、保護メガネ、作業用手袋などの適切な保護具も着用してください。

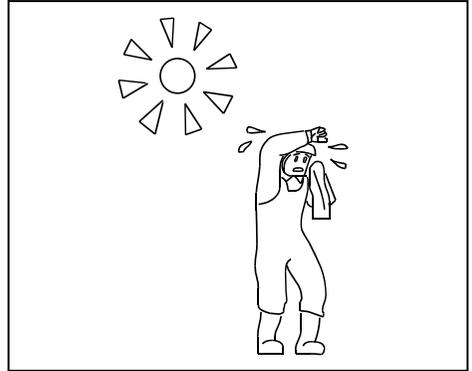


- (3) 飲酒時や過労時および薬剤を服用し、作業に支障がある方、妊娠している方ならびに子どもは絶対に作業をしてはいけません。予期せぬ事故に繋がるおそれがあります。作業を行なう際は、心身とも健康な状態で行なってください。また、未経験者が作業される場合は、経験豊富な方を帯同してください。



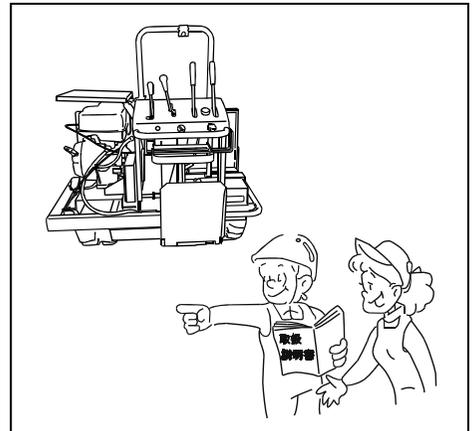
■作業環境への対応

- (1) 暑熱環境での作業は熱中症になるおそれがあるため、気温の高い時間帯を避け、作業時間の短縮や休憩をとり、水分・塩分補給を行なってください。点検・整備などは、できるだけ日陰のある涼しい場所で行なってください。

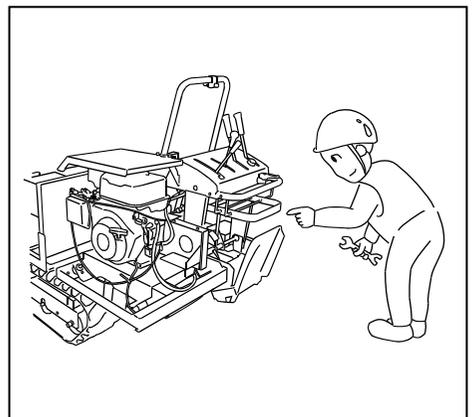


■作業前の確認

- (1) 作業前は、本書を参考に必要な点検・整備を必ず行なってください。点検を怠るとブレーキの効力の低下やクラッチの動作不良を見落とし、走行中および作業中に予期せぬ事故に繋がるおそれがあります。
なお、点検を行なう際は、必ずエンジンを停止してください。また、エンジンが冷めている状態で行なってください。



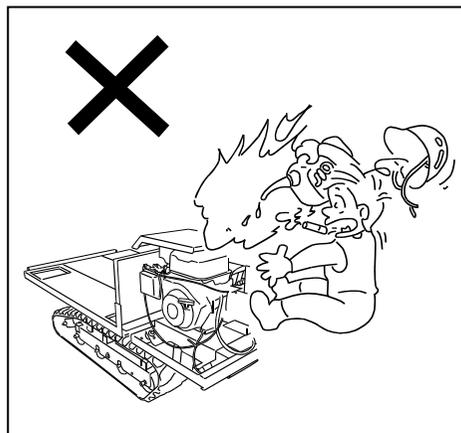
- (2) 保護カバーや配線の被覆キャップを取り付けてください。保護具が外れた状態で運転を行なった場合、回転部や作動部に巻き込まれたり、高温部に身体が触れ、傷害事故に繋がるおそれがあるため大変危険です。また、配線のショートにより火災に繋がるおそれがあります。



安全のポイント

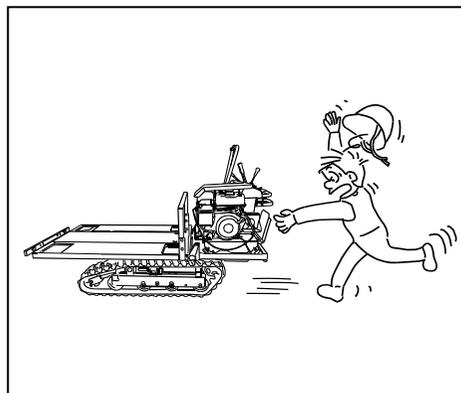
- (3) 燃料の給油や潤滑油の給油、交換の際は、必ずエンジンを停止してください。

くわえタバコや周囲で火気を扱うことは厳禁です。守らなかった場合、火傷および火災に繋がるおそれがあるため大変危険です。また、静電気は火災の原因となります。給油の際は、身体に帯電した静電気を除電（手を本機の金属部分に触れる）してから行なってください。

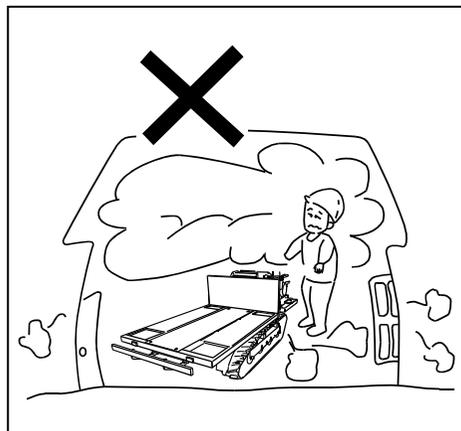


■エンジンの始動と発進

- (1) エンジンを始動する際は、走行レバーを「中立」位置にし、走行クラッチレバーを「駐車」位置にしてください（走行クラッチレバーが「走行」位置では、セルスタータでのエンジンの始動はできません）。また、発進は周囲の安全を確認してからゆっくりと行ってください。急発進・急停止は危険です。

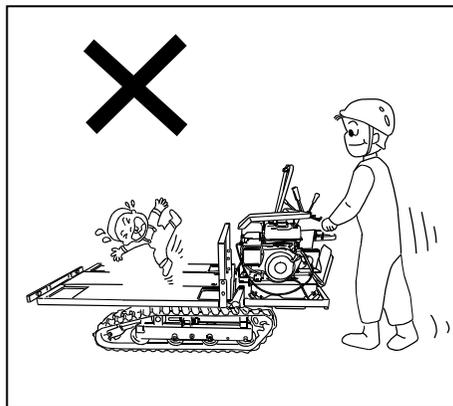


- (2) 屋内でエンジンを始動する際は、窓や扉を開放し、換気を十分に行なってください。風通しが悪い場合、排ガス中毒を起こし、身体に影響を及ぼすおそれがあるため大変危険です。

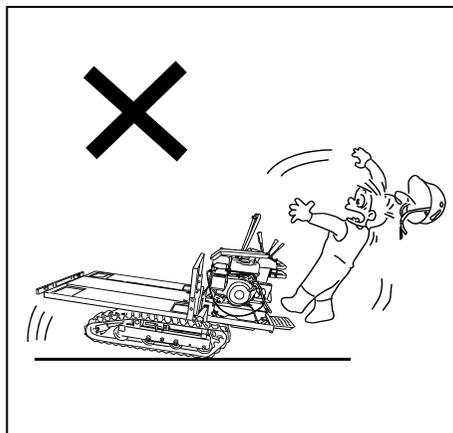


■走行する場合

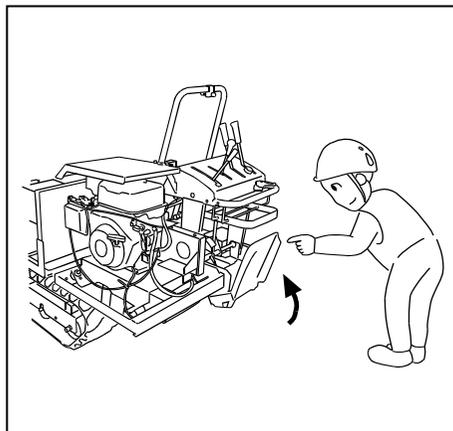
- (1) いかなる場合でも荷台に人や動物を乗せて走行しないでください。走行中の急旋回や車体の重心が移動することで、落下のおそれがあるため大変危険です。



- (2) 空荷（無積載）状態で走行する際は、歩行運転を行なってください。ステップに乗車した場合や簡易シート（オプション）に着座した場合、車体前方が浮き上がる可能性があるため大変危険です。

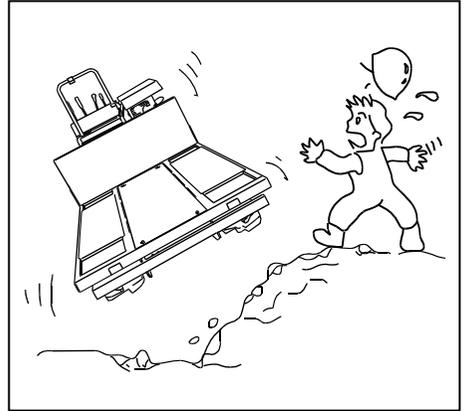


- (3) 歩行運転の際は、ステップを収納（折りたたむ）してください。歩行運転中に接触してケガをするおそれがあります。

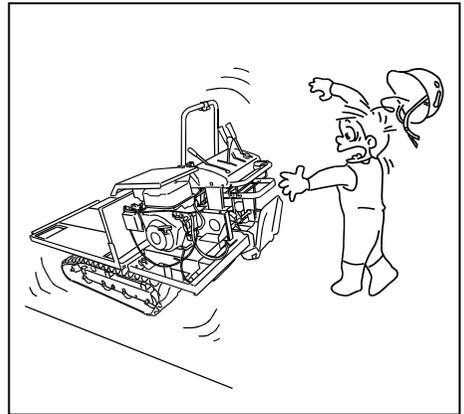


安全のポイント

- (4) 路肩や側溝のある道および走行面の両側が傾斜している道などで走行する際は、速度を落とし、十分注意して走行してください。転落・転倒に繋がるおそれがあるため大変危険です。

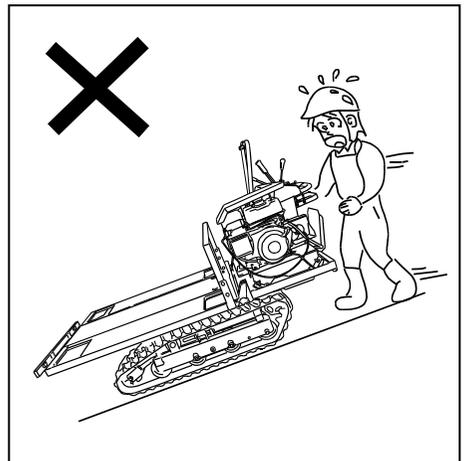


- (5) 坂道での上り下りは、ステップから降車してください。また、低速および直進走行を行なってください。その際の斜面の横断や旋回動作は、本機や積荷が転倒・落下するおそれがあります。特に下り坂では、曲がろうとしてサイドクラッチレバーを操作した瞬間に、曲がる側の走行部が滑るおそれがあり、想定している方向と逆に進むことがあるため大変危険です。



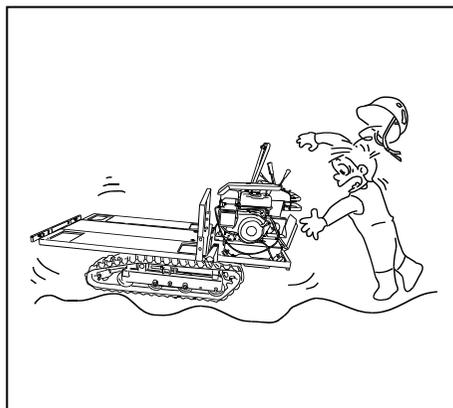
- (6) 坂道の走行中は、絶対に走行クラッチレバーを「停止」位置にしないでください。車体が斜面の下方側へ空走および加速し、衝突ならびに転倒事故に繋がるため大変危険です。走行レバーが「中立」位置であっても下方側へ空走するおそれがあります。

なお、坂道を下るときの速度調節は、エンジン運転状態で走行レバーにて行なってください。

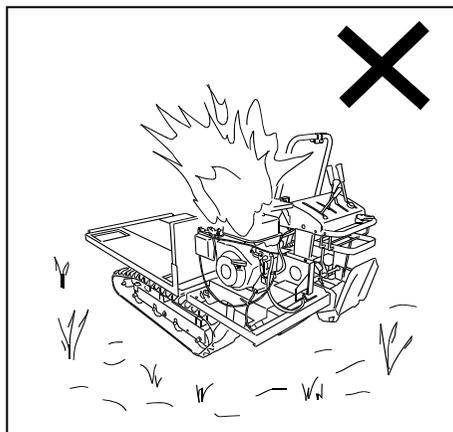


安全のポイント

- (7) 凹凸の激しい場所や軟弱地での高速走行は行なわないでください。路面状態、積載状態に応じた安全な速度で走行してください。守らなかった場合、衝突や転倒事故に繋がるおそれがあります。



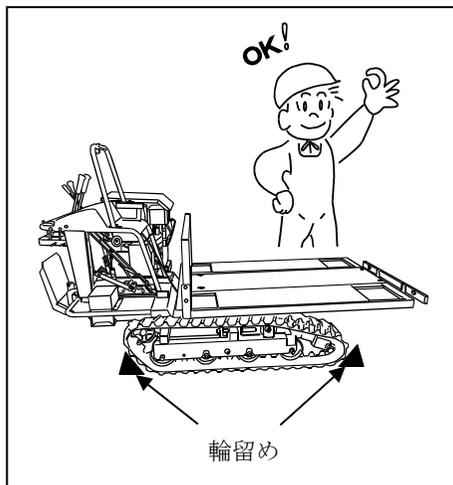
- (8) 草やワラ、木くずなどの燃えやすいものの上に本機を停車または駐車させないでください。また、周囲に油脂類や燃料などの危険物が無いことを確認してください。排気管やマフラーおよび排気ガスの熱により可燃物に引火し、火災の原因となります。



- (9) 本機は、平坦で地盤が硬く、広い場所に駐車してください。

本機から離れる際は、走行レバーを「中立」位置にし、必ず走行クラッチレバーを「駐車」位置にしてください。その後、エンジンを停止し、輪留め（車輪止め）をしてください。更に、キースイッチからキーを抜き取ってください。

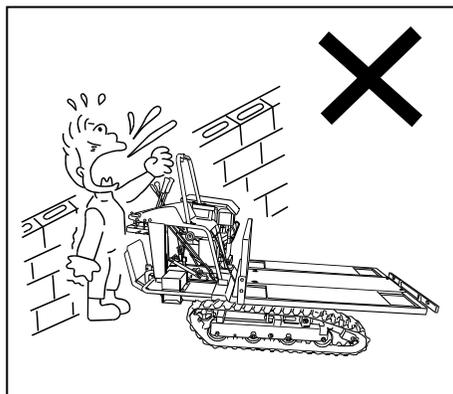
走行クラッチレバーが「走行」位置のままだと、車体が自然に動きだすおそれがあるため大変危険です。



安全のポイント

- (10) わき見運転や無理な姿勢での運転は、行なわないでください。また、前進方向、後進方向に障害物が無いことを確認してください。特に後進の際は、挟まれるおそれがあるため大変危険です。

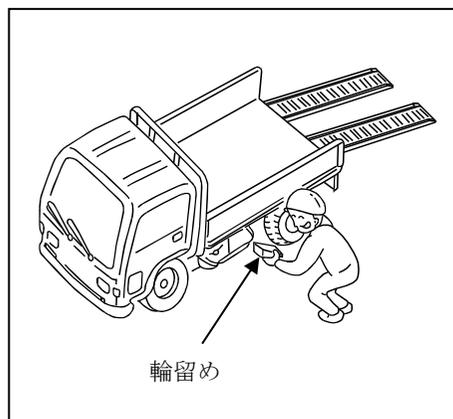
本機はデッドマンハンドル（挟圧防止装置）を装備していますが、十分に安全を確認してください。



■トラックへの積み込み・積み降ろし

- (1) 本機をトラックに積み込み・積み降ろしする際は、トラックのエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけた後、輪留め（車輪止め）をしてください。守らなかった場合、積み込み・積み降ろし時にトラックが動きだし、転落・転倒事故に繋がるおそれがあるため大変危険です。

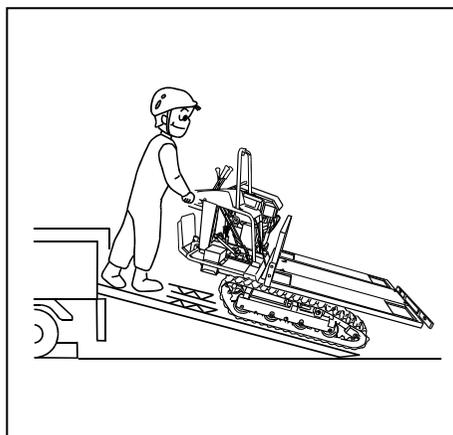
この作業を行なうときは、本機のステップを収納してください。（本書29ページ参照）



- (2) 積み込み・積み降ろしに使用するアルミ板は、強度、幅、長さが適切であり、滑りにくいものを選んでください。

アルミ板は、トラックの荷台に対して真つすぐにしっかりと架けてください。

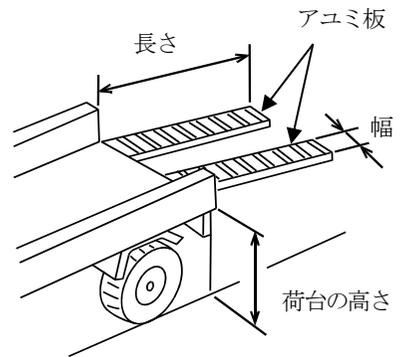
本機の積み込み・積み降ろしは、直進性を見定め、スロットルレバーを中速以上に設定し、走行レバーにて低速で行なってください。また、アルミ板を走行中の方向修正は、転落・転倒事故の原因となるため大変危険です。



安全のポイント

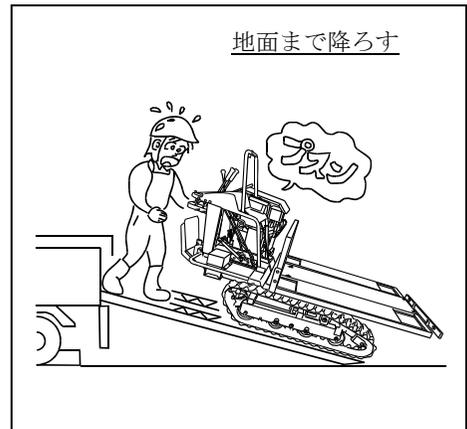
< アルミ板の選定基準 >

- 長さ…車の荷台の高さの4倍以上
- 幅…本機クローラの1.5倍以上
- 強度…車体総重量の1.5倍以上(1本当たり)
- アルミ板に滑り止めが施されていること



- (3) 万一、登坂または降坂中にエンジンが停止した場合、走行レバーを素早く「中立」位置にし、走行クラッチレバーを「停止」位置にしてください。

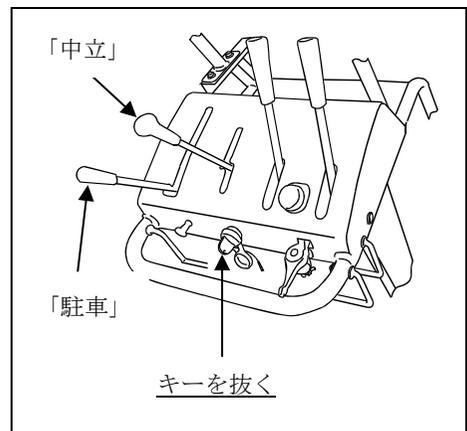
本機の状態と周囲の安全を十分に確認し、エンジンを再始動した後、中断した作業を続けてください。



- (4) トラックで輸送する際は、本機の走行レバーを「中立」位置にし、必ず走行クラッチレバーを「駐車」位置にした後、輪留め(車輪止め)をしてください。更に、キースイッチからキーを抜き取ってください。また、本機は必ずロープまたはベルトでトラックの荷台に固定してください。

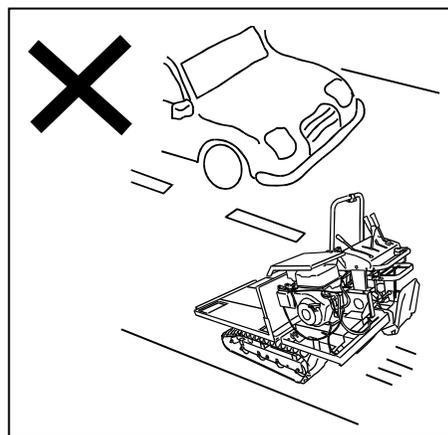
輸送時は、本機のエンジンの燃料コックを閉じてください。

輸送中、トラックの急発進、急ブレーキ急ハンドルは避けてください。本機が転倒するおそれがあるため大変危険です。

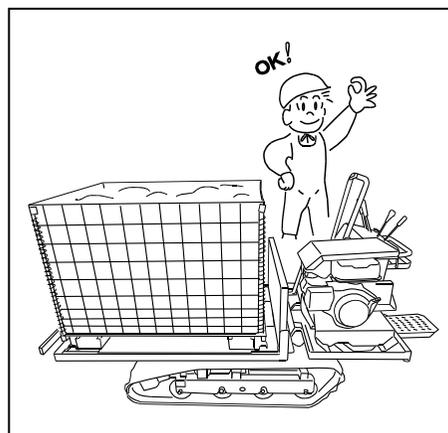


■ 運転と作業

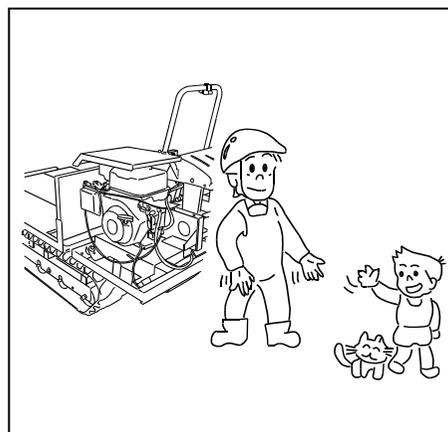
- (1) 本製品は、圃場内での運搬を目的とした作業車であるため、公道および公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路を運転した場合、法令違反になります。



- (2) 本機の積載制限を守ってください。積載制限の超過は、本機の破損または誤操作によって転倒に繋がるおそれがあるため大変危険です。また、ステップにも重量制限があります。重量を超過した場合、ステップ部の破損および乗車者の転落・転倒事故の原因になります。(本書29ページ参照)

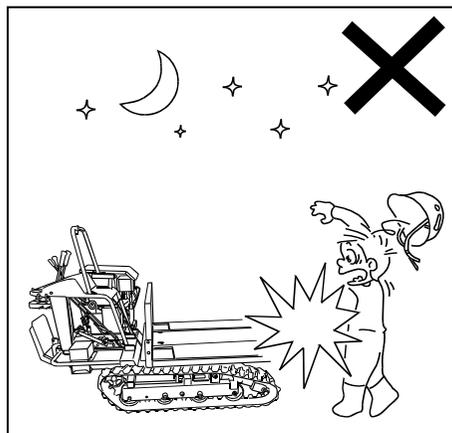


- (3) 作業を開始するときは、必ず周囲の安全を確認してください。その際は、作業員以外の方、特に子どもを近づけないでください。また、傾斜地での作業は重心が移動するため注意してください。以上のことは、傷害事故に繋がるおそれがあるため状況をよく確認してください。

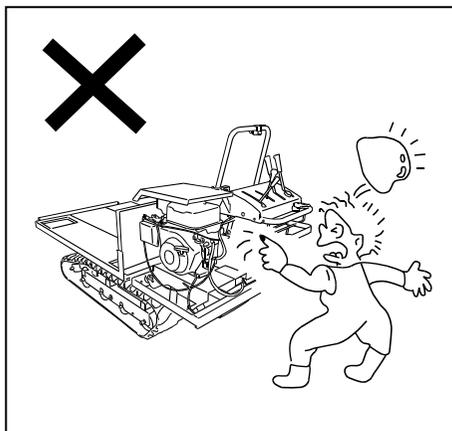


安全のポイント

- (4) 本機には夜間作業用のライトを装備していません。周囲の状況が把握しにくい夜間やトンネル内などの暗い場所では、運転、作業を行なわないでください。

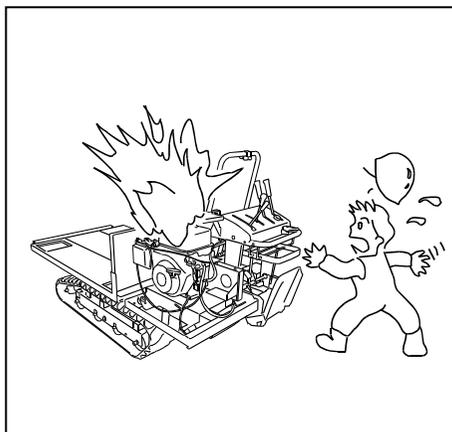


- (5) エンジン運転中は、回転部や作動部、エンジンおよびマフラーなどの高温部、ならびに通電部（バッテリー、端子接続部）には触れないでください。傷害事故の原因となるため大変危険です。



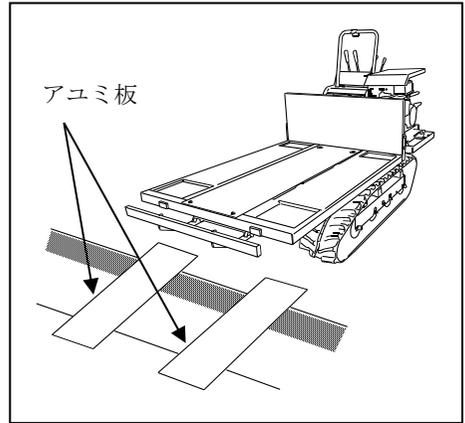
- (6) 作業中、エンジンおよびマフラーなどの高温部に付着・堆積した泥やゴミなどは取り除いてください。また、高温部に接触している、あるいは接触しそうな可燃物（ビニールシート、ロープなど）は、接触しないよう処置を行なってください。そのまま使用を続けると火災の原因となります。

取り除く際は、火傷しないよう高温部が冷めた状態で行なってください。

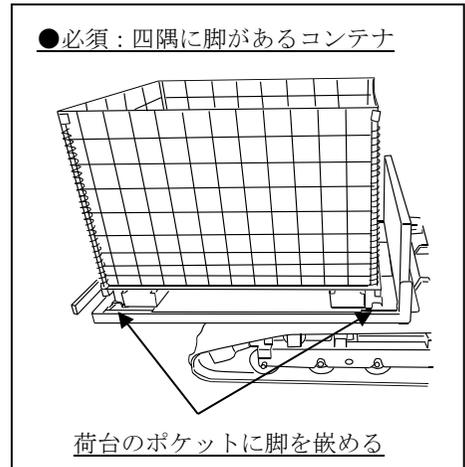


安全のポイント

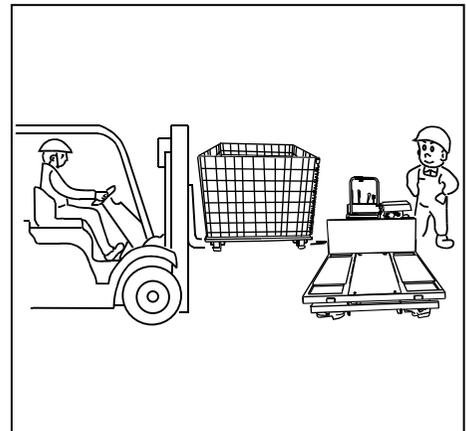
- (7) 溝の横断や畔越えの際は、必ずアユミ板を使用してください。その際、溝および畔に対してアユミ板を直角に設置し、低速で走行してください。守らなかった場合、脱輪やスリップなどにより転落・転倒し、傷害事故に繋がるおそれがあるため大変危険です。また、本機の破損に繋がります。



- (8) 荷台に載せる収穫用鉄コンテナ（以下「コンテナ」と略す）は、四隅に脚があるものを使用してください。更に、コンテナずれ防止段差（荷台の四隅脚置きポケット）に嵌るサイズのものを使用してください。コンテナのサイズが異なっていたり、載せる向きが違っていたりすることで、荷台のポケットに脚が嵌っていない場合、コンテナが落下するおそれがあるため大変危険です。



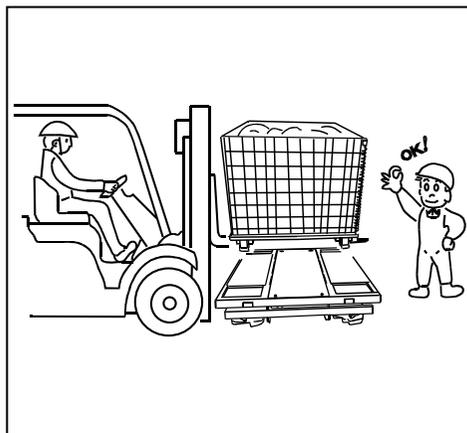
- (9) 荷台にコンテナを載せる際、コンテナが落下しないよう十分注意してください。落下した場合、傷害事故の原因となります。
- ・ステップおよび簡易シート（オプション）から降車してください。
 - ・フォークリフト運転者は、周囲の安全の確認とコンテナの脚が荷台ポケットに嵌るよう積む作業を行なってください。
 - ・誘導者を配置する場合、本機周辺で安全な立ち位置を確保し、他の作業者を立ち入らせないことと、フォークリフト運転者に合図しながらコンテナの載せる位置を指示してください。



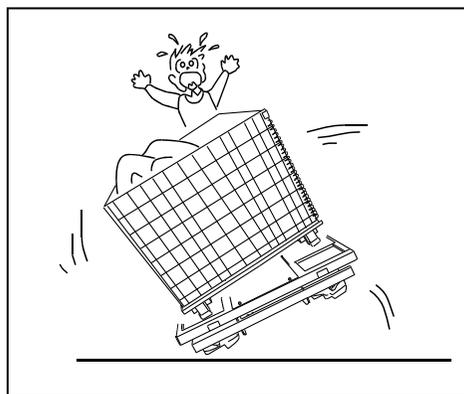
安全のポイント

(10) 荷台からコンテナを降ろす際、コンテナが落下しないよう十分注意してください。落下した場合、傷害事故の原因となります。

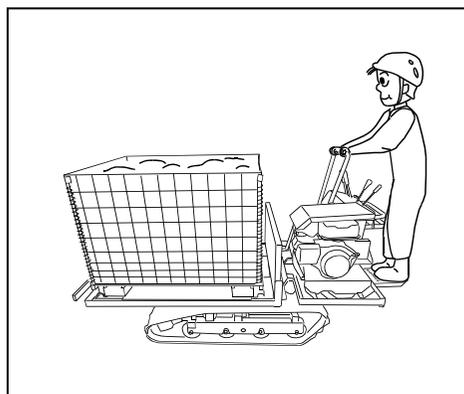
- ・ステップおよび簡易シート（オプション）から降車してください。乗車したままだと車体前方が浮き上がるおそれがあるため大変危険です。
- ・フォークリフト運転者は、周囲の安全の確認とコンテナのバランスを考慮し、降ろし作業を行なってください。
- ・誘導者を配置する場合、本機周辺で安全な立ち位置を確保し、他の作業者を立ち入らせないことと、フォークリフト運転者に合図しながらコンテナをすくい上げる位置を指示してください。



(11) 荷台に載せたコンテナに収穫物を入れる際は、車体全体の重量バランスを考慮してください。片寄った入れ方をした場合、コンテナの落下および車体が転倒するおそれがあるため大変危険です。



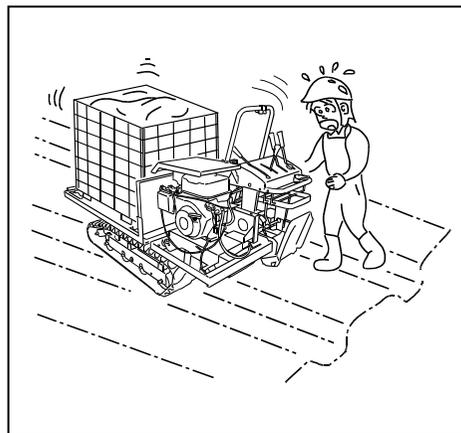
(12) 立ち乗り運転中は、ハンドルグリップをしっかりと握ってください。走行中や進路を微調整する際に、ステップから転倒するおそれがあるため大変危険です。



安全のポイント

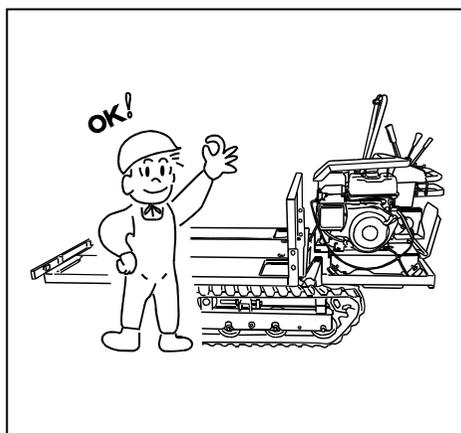
- (13) 旋回および段差越えや畝の横断（畝越え）、畝をまたぐ際は、歩行運転を行なってください。その際は、低速で走行し、段差に対して直角に進入してください。

コンテナを載せた状態で畝をまたぐ場合、車体の前後左右方向の傾きを確認しながら十分注意して行なってください。無理な操作は、コンテナの落下、車体の転倒に繋がるおそれがあるため大変危険です。また、脱輪のおそれがあります。

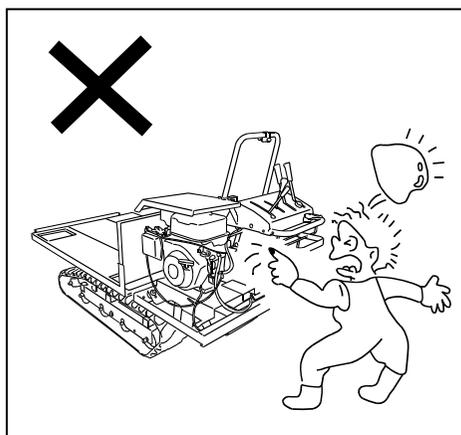


■点検・整備

- (1) 点検・整備は、平坦で地盤が硬く、明るく広い場所で行なってください。また、必ずエンジンを停止し、走行クラッチレバーを「駐車」位置にしてから行なってください。予期せぬ事故に繋がるおそれがあります。

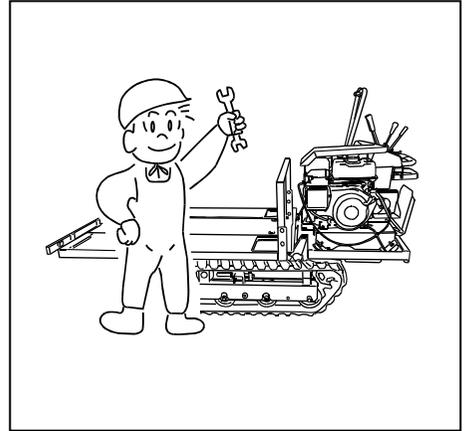


- (2) エンジン停止直後に本機の清掃および点検・整備を行なわないでください。エンジンおよび排気部などの高温部が、十分に冷めてから行なってください。守らなかった場合、火傷をするおそれがあります。

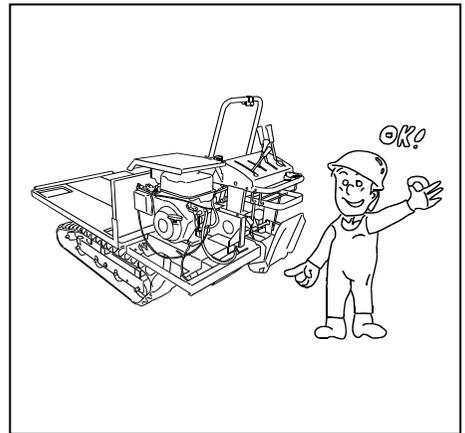


安全のポイント

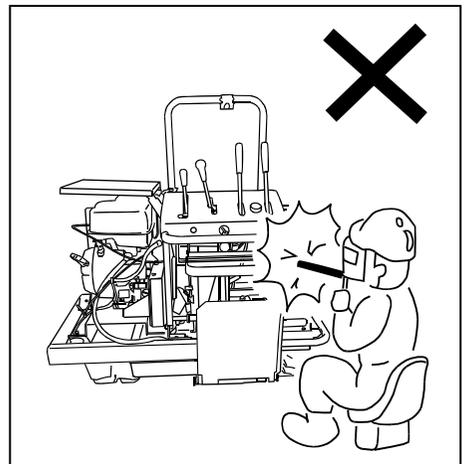
- (3) 工具類は、適切なものを正しく使用してください。一時的であったとしても不適切な工具および不適正な使用方法は、点検・整備中の傷害事故や整備不良によって予期せぬ事故に繋がるおそれがあるため大変危険です。



- (4) 点検・整備で取り外した保護カバー類や配線の被覆キャップは、必ず元の位置に取り付けてください。回転部や作動部および高温部が露出した状態では、傷害事故に繋がるおそれがあるため大変危険です。

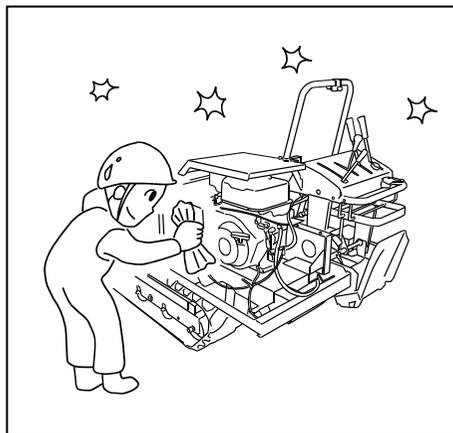


- (5) 本機の改造は絶対に行なわないでください。故障や事故の原因となります。



■保管と格納

- (1) 本機のエンジンを停止し、車体に付着・堆積した埃や泥およびゴミなどをきれいに取り除いてください。特に排気管やマフラーなどのエンジン周辺に付着したゴミは、火災の原因となります。必ず取り除いてください。

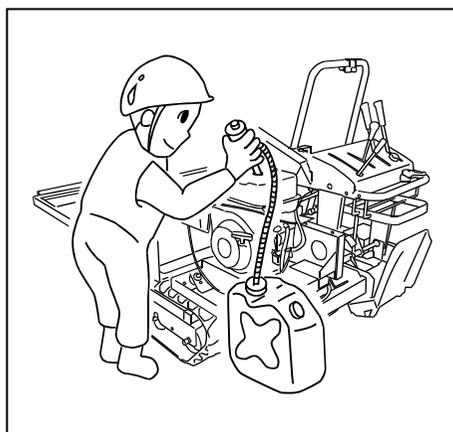


- (2) 子どもや関係者以外の方が容易に触れないようシートカバーを被せるか、保管庫に格納してください。シートカバーを被せる場合、高温部が十分冷めた状態で行なってください。熱いうちにシートカバーを被せた場合、火災の原因となります。



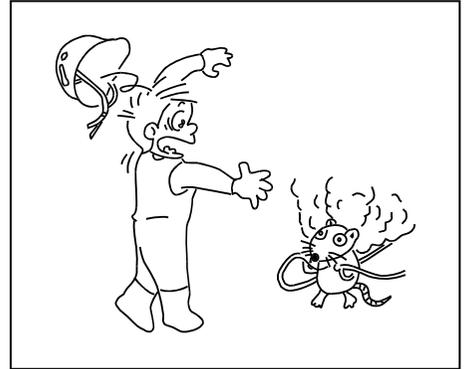
- (3) 長期格納の際は、燃料タンクおよび気化器（キャブレター）内の燃料を取り除いてください。その際に、こぼれた燃料は、よく拭き取ってください。

燃料の劣化や引火によって火災に繋がるおそれがあるため大変危険です。



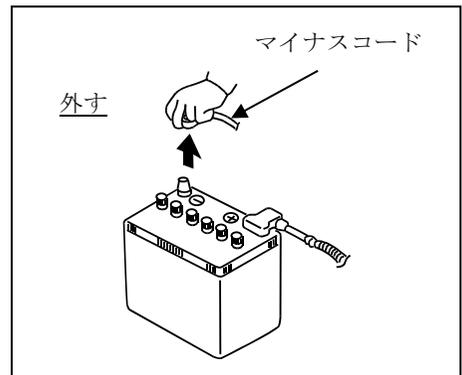
安全のポイント

- (4) 長期格納の際は、バッテリーを本機から取り外してください。バッテリーの放電や漏電を抑えることができます。また、ネズミがケーブルをかじることでショートすることがあり、発火して火災の原因となることを防ぎます。



■電装品の取り扱い

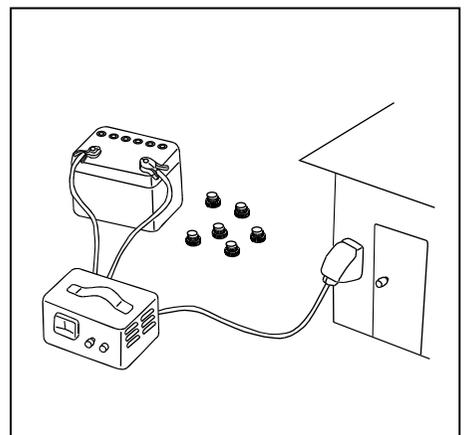
- (1) 電気配線や配線接続部の点検は、必ずエンジンを停止し、キースイッチからキーを抜き取った後、バッテリーのマイナス(⊖)側の端子を外してから行なってください。守らなかった場合、火花が飛んだり、感電など予期せぬ事故に繋がるおそれがあります。



- (2) バッテリーを取り扱う際は、ショートやスパークさせたり、タバコおよびライターなどの火気を近づけないでください。また、身体に帯電した静電気を除電してください。

充電は、風通しの良い場所にて補水キャップを外してから行なってください。守らなかった場合、引火爆発するおそれがあるため大変危険です。

バッテリー端子を取り外す際は、必ずマイナス端子を先に外してください。バッテリー端子を取り付ける際は、必ずプラス端子を先に取り付けてください。また、プラス端子とマイナス端子を同時に直接接触しないでください。感電するおそれがあります。



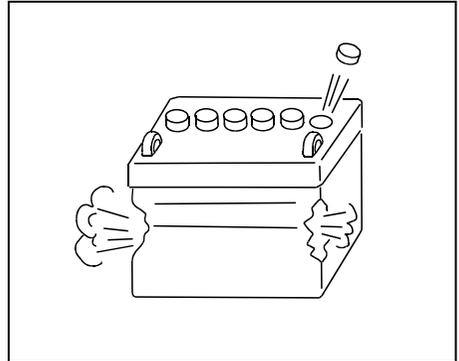
安全のポイント

- (3) バッテリー液（電解液）は希硫酸（劇物）であり、大変危険です。取り扱いに十分注意してください。

- ・硫酸ミストまたは蒸気を吸入した場合、ただちに新鮮な空気が得られる場所へ移動してください。
- ・体や衣服に付着した場合、ただちに汚染された衣類を脱ぎ、皮膚をきれいな流水で洗ってください。
- ・眼に入った場合、ただちにきれいな流水で15分以上洗い続けてください。
なお、応急処置後は医師の治療を受けてください。



- (4) バッテリー液が下限以下の状態で使用および充電され続けた場合、バッテリー容器内の各部位の劣化が促進され、寿命を縮めるほか、破裂、爆発の原因となるため大変危険です。



■ブースタケーブル使用時の注意事項

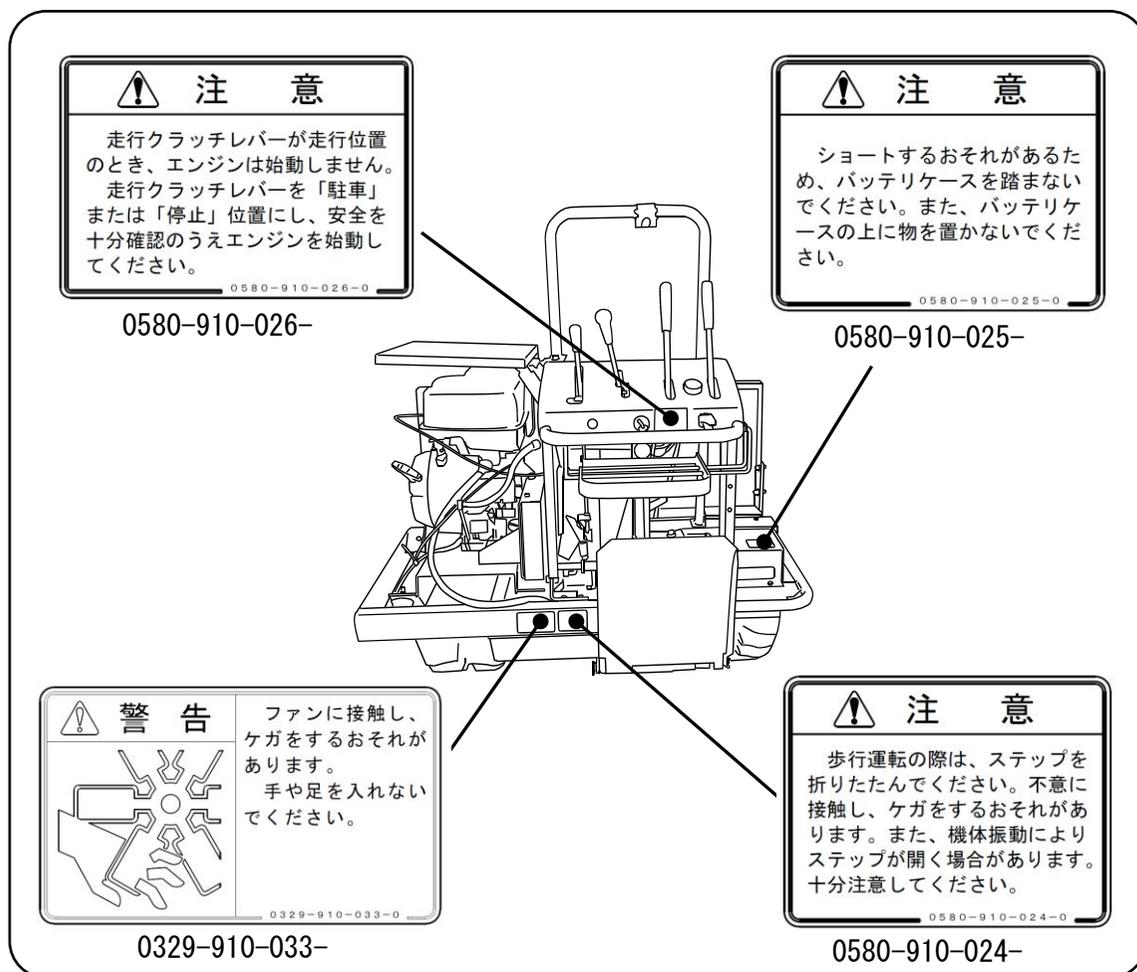
ブースタケーブルを用いてエンジン始動する際は、ブースタケーブル付属の取扱説明書をよく読んで適切に取り扱ってください。

- (1) ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを使用してください。通電容量が小さい場合、ブースタケーブルが過熱したり、焼損するため危険です。
- (2) ブースタケーブル接続前には、エンジンを停止してください。守らなかった場合、予期せぬ事故に繋がるおそれがあります。
- (3) バッテリーの補水キャップを取り外してからブースタケーブルを接続してください。万一、引火した場合でも爆発力は低下するため被害は少なくなります。

安全表示ラベルについて

- 本機には、安全に作業していただくために安全表示ラベルを貼付しています。必ずよくお読みいただき、これらの指示に従ってください。
- 安全表示ラベルの破損や紛失、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。ラベルは、「お買いあげ先」にご注文ください。
- 安全表示ラベルが汚れた場合は、きれいに拭き取り、文字、イラストが読めるようにしてください。拭き取る際は、ガソリンや有機溶剤を使用しないでください。
- 安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、安全表示ラベルも同時に「お買いあげ先」にご注文ください。
- 洗車の際に高圧水を使用する場合は、ラベル類に水を直接かけないでください。

安全表示ラベル貼付位置



安全表示ラベル貼付位置

注意

本機は圃場内作業車であるため、公道及び公道とみなされる道路での運転はできません。

0337-929-021-0

0337-929-021-

注意

本機を運転するときは、必ず取扱説明書をお読みください。

1. 本機を運転するときは、周囲の安全を確認してください。
2. 運転前には、必ず点検や整備をしてください。
3. 点検や整備をするときは、必ず動力（エンジン・電源など）を停止してから行なってください。
4. 原動機の点検整備は、原動機が冷えてから行なってください。
5. 原動機は、加熱しますので周囲をいつも確認し、火災防止に、つめてください。
6. 点検整備で取り外したカバー類は、必ず元の通りに取付けてください。

0453-910-027-0

0453-910-027-

警告

立乗り乗車中は、ハンドルグリップをしっかりと握ってください。

走行中および進路を微調整する際に、本機から転倒するおそれがあります。

0580-910-023-0

0580-910-023-

危険

引火のおそれがあります。

火を近づけないでください。

燃料：ガソリン

0453-916-011-0

0453-916-011-

警告

接触すると火傷することがあります。

エンジン停止後、冷えるまでは、さわらないでください。

0453-910-024-0

0453-910-024-

危険

走行クラッチを踏みすぎるまたは、必ず走行レバーを「中立」位置に戻さないと、特に急激な「中立」位置に戻ると、クラッチが過度に摩耗するおそれがあります。必ず運転前、運転中にクラッチを1年に1回入れ替えてください。

危険

燃料がわずかに動くことがあります。

燃料から漏れるときは、必ず燃料タンクを空けてください。

駐車

走行

走行クラッチ

停止

ブレーキ

走行レバー

7
6
5
4
3
2
1
0
T

前進

中立

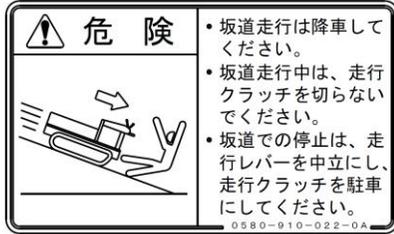
後進

サイドクラッチレバー

0560-910-061-0

0560-910-061-

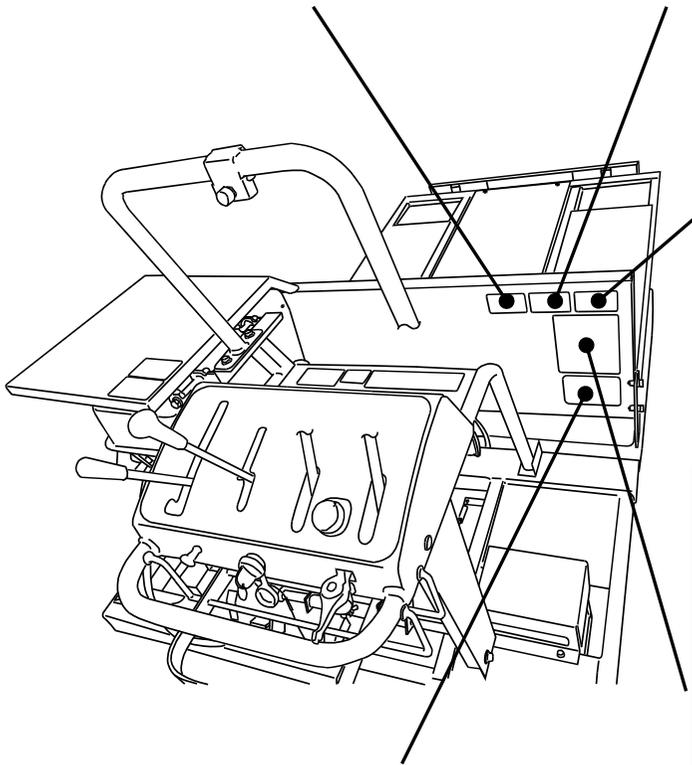
安全表示ラベル貼付位置



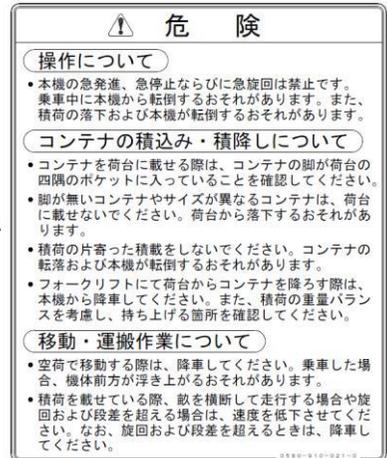
0580-910-022-



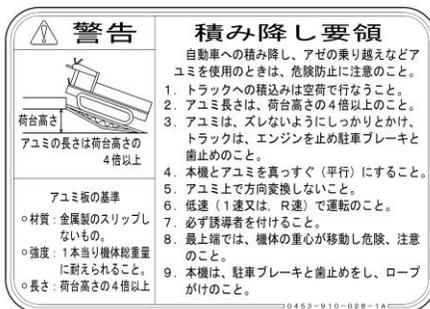
0453-910-021-



0438-910-024-

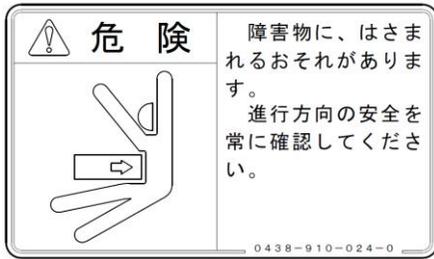


0580-910-021-

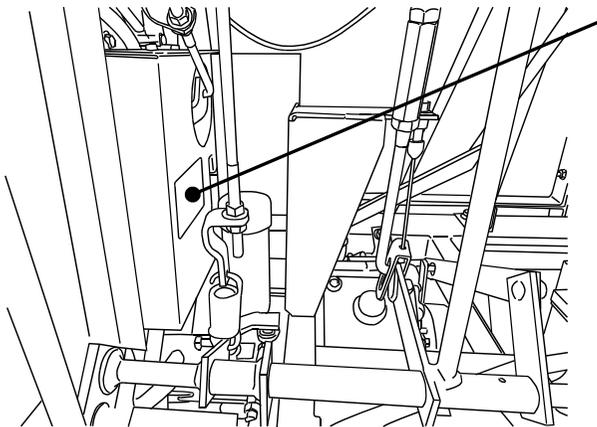
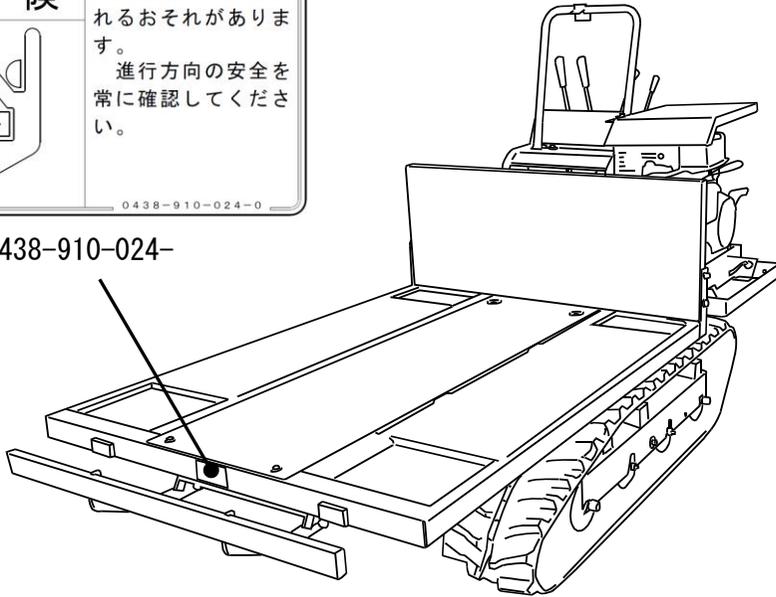


0453-910-028-

安全表示ラベル貼付位置



0438-910-024-



ハンドル下部



0329-910-034-

保証とサービス

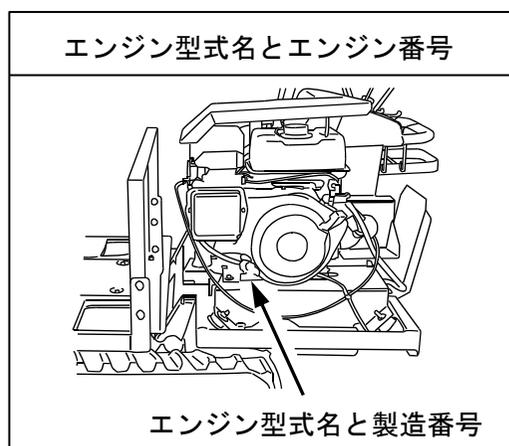
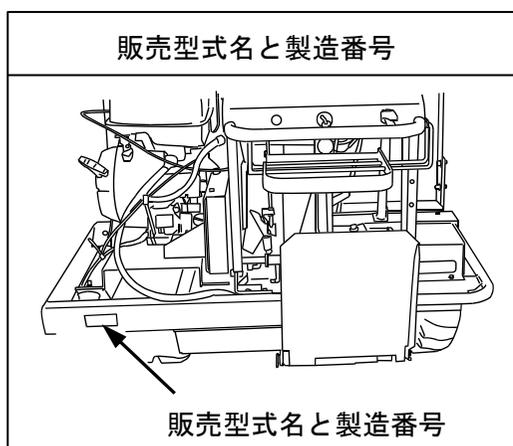
■新車の保証

本製品には、(株)アテックス保証書が添付されています。詳しい保証内容については保証書をご覧ください。

■サービスネット

ご使用中の故障や不審な点、およびサービスに関するご用命は、「お買いあげ先」にお気軽にご相談ください。その際は、以下の品名、番号をご連絡ください。

- (1) 販売型式名と製造番号
- (2) エンジン型式名とエンジン番号



■補修用部品の供給年限について

本製品における補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後7年といたします。ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、供給の可否および納期についてご相談させていただく場合があります。

原則として、補修用部品の供給は上記年限にて終了いたします。ただし、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

スイッチおよび操作レバーの名称とはたらき

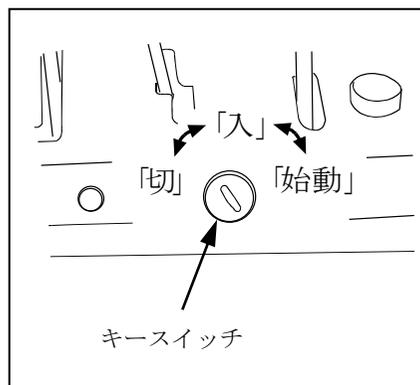
■キースイッチ

エンジンの始動・停止を行なうスイッチです。

「切」 位置・・・エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置。

「入」 位置・・・エンジン運転中の位置。

「始動」位置・・・エンジンを始動させる位置。
手を離すと自動的に「入」位置に戻ります。



※エンジンの始動・停止方法については、本書34～37ページを参照してください。

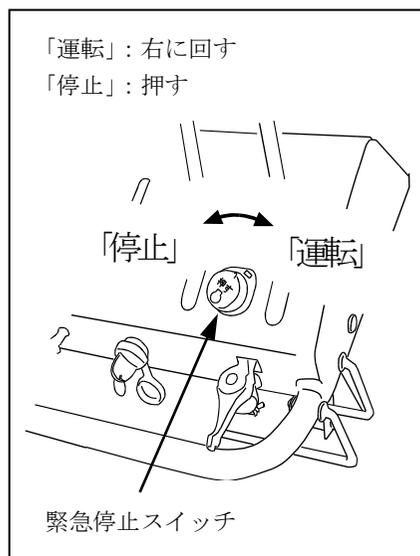
■緊急停止スイッチ

スイッチを右に回すと「運転」になります。

「運転」の状態ですwitchを押すと「停止」になり、エンジンが停止します。

重要

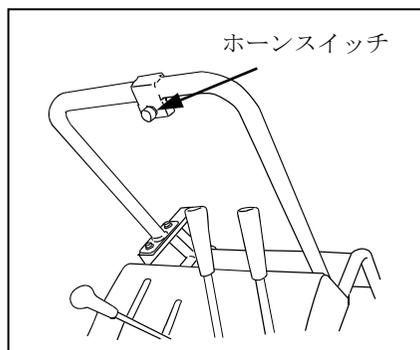
- エンジンを始動する際は、緊急停止スイッチが「運転」位置であることを確認してください。「停止」位置の場合、セルモータは回りますが、エンジンは始動しません。
- 走行中、緊急停止スイッチを押すことでエンジンは停止しますが、車体は直ぐには止まりません（慣性により、少し進んで止まります）。安全を十分に確認してください。また、ブレーキは掛かっていませんので、走行クラッチレバーを「駐車」位置にしてください。なお、電力消費を避けるため、キースイッチを「切」位置にしてください。



各部の名称とはたらき

■ホーンスイッチ

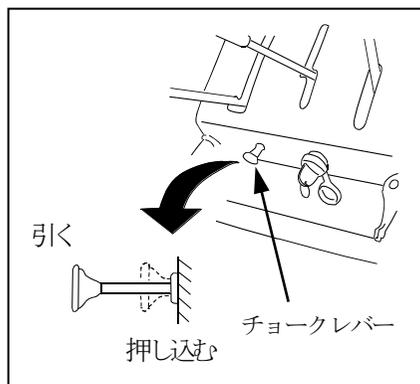
キースイッチが「入」位置のとき、ホーンスイッチを押すことで警音が鳴ります（エンジンが停止中でも鳴ります）。



■チョークレバー

エンジンが冷えているときにエンジン始動を容易にするために使用します。

エンジン始動が困難な場合、チョークレバーを最大まで引いてエンジンを始動してください。エンジン始動後は、必ずチョークレバーを元の位置（最小まで押し込んだ状態）まで徐々に戻してください。エンジンが暖機できているときは、チョークレバーは引かない、または半分程度引いた状態でエンジンを始動してください。



※エンジン始動方法については、本書34～36ページを参照してください。

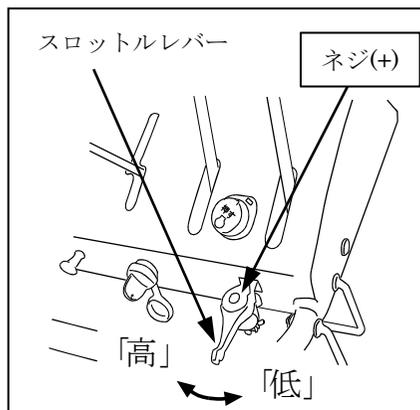
■スロットルレバー

エンジンの回転数を調節するレバーです。エンジンの回転数が最高ときに馬力が最大になります。状況に応じて調節してください。

「低」・・・エンジンの回転数がアイドリング回転になります。

「高」・・・エンジンの回転数が最高回転になります。

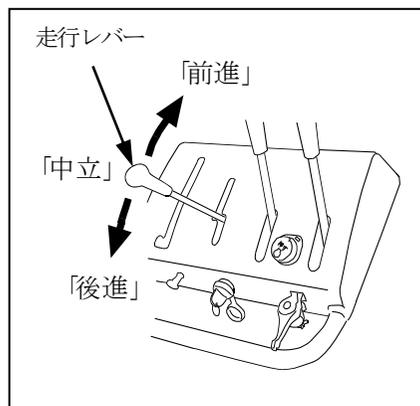
重要 ●レバーの位置が保持できない場合、右図のネジ (+) にて調整してください。



■ 走行レバー

HSTにより前進および後進の無段変速ができます。

レバーを「中立」位置より前方に倒すことで前進、手前に引くことで後進します。なお、走行レバーの倒れ角によって、停止状態から最高速まで調節ができます。



重要

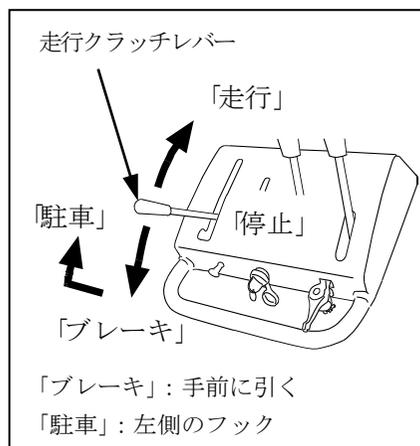
- 運転前は、走行レバーを「中立」位置にしてください。操作の際は、必ず先に走行クラッチレバーを「走行」位置にしてください。走行レバーはゆっくりと操作し、急発進・急停止を避けてください。エンジンの突然停止やHSTの故障に繋がります。
- 路面状態、積載量などの条件に応じて速度を調節してください。
- 積載量により走行速度は変化します（積載量が多くなるほど遅くなります）。

■ 走行クラッチレバー

走行クラッチレバーを「走行」位置にすることで、エンジンの回転が走行ベルトによりトランスミッションに伝達されます。また、走行クラッチレバーを「停止」位置より手前に引くことでブレーキがかかります。

「駐車」位置にする場合は、レバーを手前に引きながら左側のフックに掛けます。

※走行クラッチレバーが「走行」位置では、セルスタータでのエンジン始動はできません。



⚠ 危険

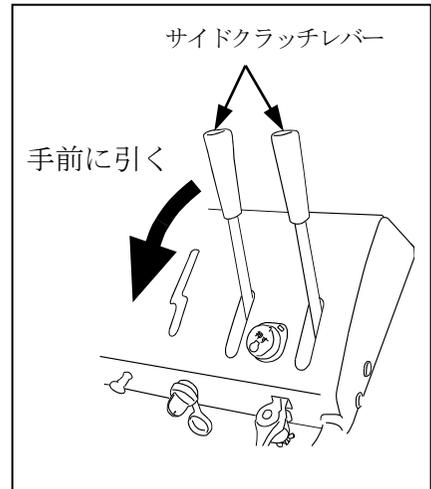
- 走行クラッチレバーを操作する前に、必ず走行レバーを「中立」位置に戻してください。想定している方向と逆に進むことがあるため大変危険です。

■サイドクラッチレバー

旋回側のサイドクラッチレバーを手前に引くことで車体が旋回します。このとき、レバーの引き加減で旋回半径が変わります。

旋回は十分に速度を落としてから行なってください。また、荷物を積むことで旋回時の負荷および操作荷重が大きくなります。

緊急時、左右両方のサイドクラッチレバーを同時に引くことでブレーキがかかり、車体が停止します。



警告

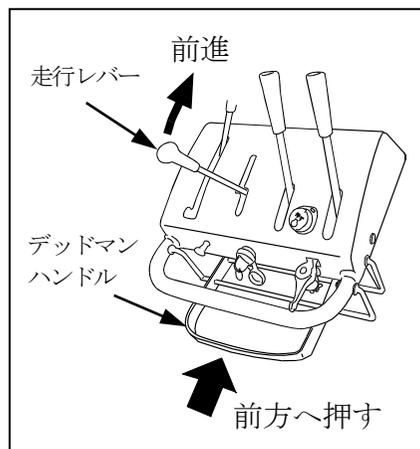
●旋回するときはステップから降車し、歩行運転を行なってください。その際は、低速で行なってください。乗車状態や高速での旋回は、運転者および本機、積荷の転落・転倒に繋がるおそれがあるため大変危険です。

非常停止装置の名称とはたらき

■デッドマンハンドル（挟圧防止装置）

車体が後進している状態のとき、デッドマンハンドルを前方へ押すことで、走行レバーが「中立」位置よりやや「前進」の位置まで作動し、車体は後進動作から前進動作に切り替わります。

警告 ●本機はデッドマンハンドルを装備していますが、後進の際は障害物に挟まれないよう十分注意してください。

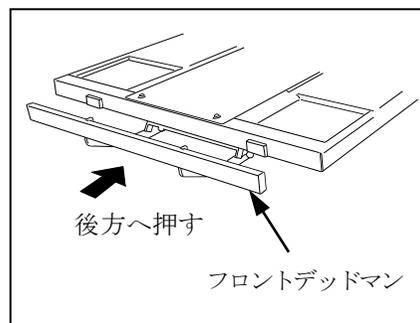


- 重要** ●後進時、作業者が車体と障害物との間に挟まれた場合、自動的に前進動作に切り替わりますが、周囲の安全には十分注意して運転してください。
- 坂道で操作ハンドル部が車体の下方側になる場合、デッドマンハンドルを使用し、走行レバーが「前進」の位置まで作動しても車体は停止するだけで、前進しないことがあります。反対に、操作ハンドル部が上方側になる場合、車体は坂道を下る側に加速するため十分注意してください。

■フロントデッドマン（前方衝突停止装置）

車体が前進している状態のとき、フロントデッドマンを後方へ押すことで、走行レバーが「中立」位置に戻り、車体が停止します。

警告 ●本機はフロントデッドマンを装備していますが、前進中に前方をよく確認し、作業機などに接触しないよう安全な距離を確保してください。



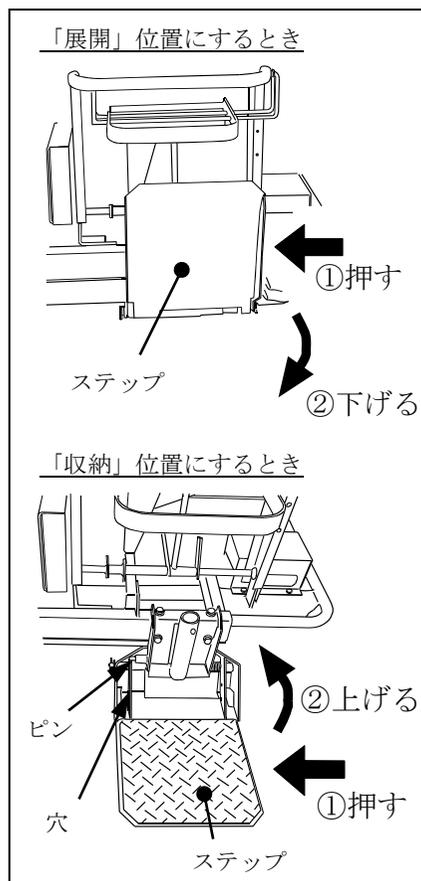
- 重要** ●強固な障害物に接触した場合、フロントデッドマンが変形および破損する可能性があります。接触後は、状態および作動を必ず確認してください。

その他部品の名称とはたらき

■ステップ

本機はステップを装備しており、乗車運転（立ち乗り）を可能にしています。また、簡易シート（オプション）を取り付けて着座した際、足を置くことができます。

- ・「展開」位置にするとき（広げる）
ステップを左に押し、ロックが外れたら下方に下げます。
- ・「収納」位置にするとき（折りたたむ）
ステップを左に押し、上方に持ち上げます。ステップの左側板の穴にピンを嵌めて固定します。



⚠ 危険 ● 荷台が空荷（無積載）状態のとき、ステップには乗車しないでください。車体前方が浮き上がることもあるため大変危険です。

⚠ 警告 ● 立ち乗り運転中は、ハンドルグリップをしっかりと握ってください。ステップから転倒するおそれがあるため大変危険です。

⚠ 注意 ● 歩行運転の際は、ステップを収納（折りたたむ）してください。歩行運転中に接触してケガをするおそれがあります。
● ステップには重量制限があります。重量を超えないよう注意してください。

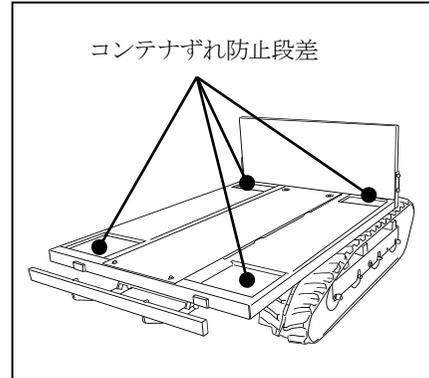
<最大乗車重量：100kg>

重要

- 輸送トラックへの積み込み・積み降ろしの際や坂道などでは、ステップが地面と接触することがあります。走行路の角度が変わる場所では、ステップを収納してください。

■ コンテナずれ防止段差（荷台の四隅脚置きポケット）

荷台の四隅には、コンテナの脚を載せるポケットを設けています。荷台面との高低差を最大で1.5 cm としており、コンテナがずれて荷台から落下することを防止します。



危険

- コンテナは、四隅に脚があるものを使用してください。更に、荷台の四隅のポケットに嵌るサイズのものを使用してください。ポケットに脚が嵌っていない場合、コンテナが落下し重大事故に繋がるおそれがあります。

重要

- 四隅のポケットに変形および破損を発見した際は、修理を依頼してください。そのまま使用を続けた場合、コンテナのずれ防止機能を果たせなくなります。

運転前の準備

運転前の点検について

警告 ●点検前は必ずエンジンを停止し、走行クラッチレバーを「駐車」位置にしてください。守らなかった場合、傷害事故に繋がるおそれがあるため大変危険です。

■始業点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。始業点検は毎回欠かさず行なってください。

点検は次の順序で実施してください。

(1) 前回使用時の異常箇所の整備

(2) エンジン停止時の確認

●ギヤボックスオイルの量および汚れ	51～52ページ
●燃料の確認と燃料キャップの締め付け	33・54ページ
●エンジンオイルの量および汚れ	55ページ
●ストレーナーカップ内の水、沈殿物の点検	55ページ
●エアクリーナの清掃	エンジン取扱説明書
●バッテリーの点検	57～59ページ
●走行ベルトの張り度合い	60ページ
●クローラの張りおよび摩耗度合いと損傷	64ページ
●車体各部の損傷およびボルト・ナットの緩み	—
●駐車ブレーキ（走行クラッチレバー）の作動	26・63ページ
●ステップ部の損傷および破損	29ページ
●キースイッチの作動	34～37ページ

(3) エンジン運転中の確認

●スロットルレバーの作動	25ページ
●排気ガスの色、異常音	68ページ
●ホーンの作動	25ページ
●緊急停止スイッチの作動	24ページ

運転前の準備

(4) 走行中（徐行）の確認

- | | |
|-------------------------|-------------|
| ● サイドクラッチレバーの重さと戻りおよび停止 | 27・61ページ |
| ● 走行クラッチレバーの作動 | 26・60ページ |
| ● 走行レバーの作動 | 26・61～62ページ |
| ● 走行部の異常音 | 69ページ |
| ● デッドマンハンドルの作動 | 28ページ |
| ● フロントデッドマンの作動 | 28・63ページ |

運転のしかた

エンジンの始動と停止のしかた

■ 燃料の給油

⚠ 危険

- 燃料を給油するときは、くわえタバコや周囲で火気を扱うことは厳禁です。引火・爆発・火災の原因となります。
- 車体を平坦な場所に駐車させ、必ずエンジンを停止した後、エンジンおよびマフラーが冷めた状態で行なってください。
- 身体に帯電した静電気を除電（手を本機の金属部分に触れる）してから行ってください。引火し、火災の原因となります。
- 燃料を入れ過ぎないでください。入れ過ぎた場合、車体の振動や傾斜走行中の燃料タンクの傾きによって燃料が漏れ出し、火災の原因となります。
- 運転後の燃料タンク内は、気圧が高まっていることがあります。燃料キャップを一気に開けた場合、燃料が噴出し、火災の原因となります。まずは燃料キャップを少し緩め、燃料タンク内と外気の気圧差を取り除いてください。
- 燃料がこぼれた場合は、すみやかに拭き取ってください。

重要

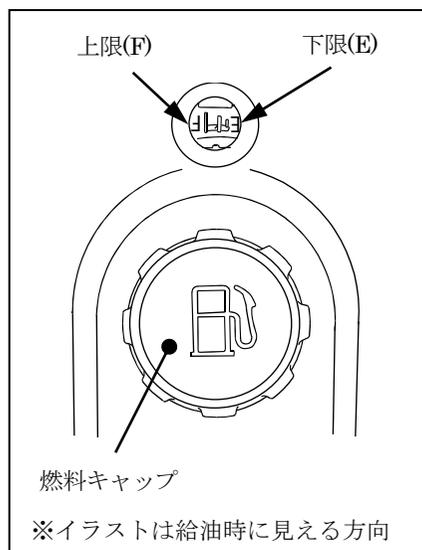
- 劣化した燃料やゴミが混入した燃料は、使用しないでください。エンジン不調の原因となります。

- (1) 燃料キャップを開け、ガソリンを給油します。

重要

- 燃料は、自動車用無鉛ガソリンを給油してください。
- 燃料は、燃料ゲージの「上限」以上に入れないでください。燃料が「下限」に近づいたら早めに給油してください。

- (2) 給油後は、燃料キャップを確実に締めます。

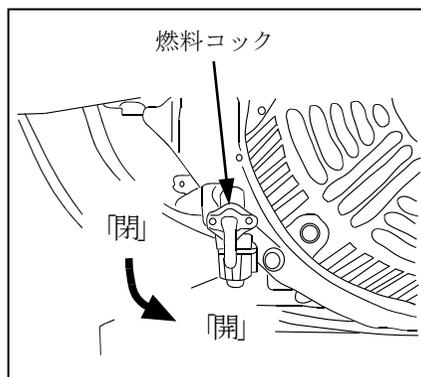


■エンジンの始動

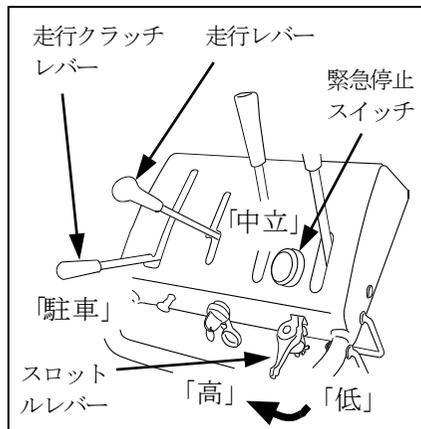
- 警告**
- 屋内でエンジンを始動する際は、窓や扉を開放し、換気を十分に行なってください。風通しが悪い場合、排気ガス中毒を起し、身体に影響を及ぼすおそれがあるため大変危険です。
 - セルスタートおよびリコイルスタート（リコイルスタータグリップを引く）によるエンジンの始動は、走行レバーを「中立」位置にし、走行クラッチレバーを「駐車」位置にしてから行なってください。このとき、周囲の安全も確認してください。守らなかった場合、予期せぬ事故に繋がるおそれがあるため大変危険です。

- 注意**
- 暖機運転中は、必ず走行クラッチレバーを「駐車」位置にしてください。守らなかった場合、車体が動き出し、大変危険です。

- (1) 燃料の量を確認し、燃料コックを開けます。



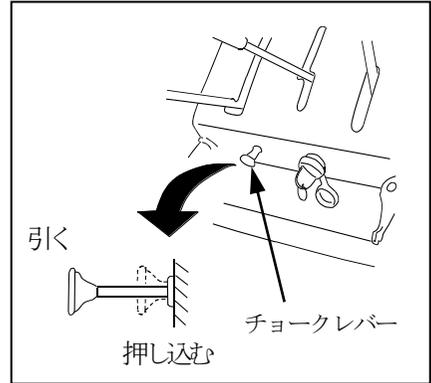
- (2) 緊急停止スイッチを「運転」位置にします。
(3) 走行レバーを「中立」位置にします。
(4) 走行クラッチレバーを「駐車」位置にします。
(5) スロットルレバーを「低」位置から「高」位置の中間程度まで回します。



(6) チョーク操作を行ないます。

重要

- エンジンが冷えているときは、最大まで引きます（全閉）。
- エンジン始動後は、必ず元の位置（最小まで押し込んだ状態）まで徐々に戻してください。

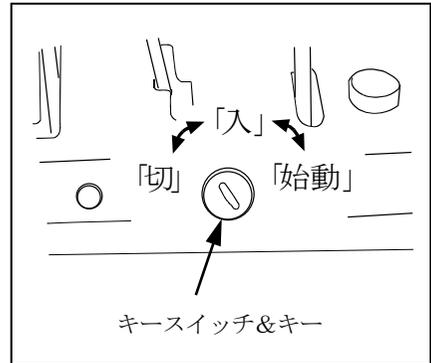


(7) エンジンを始動します。

<セルスタートの場合>

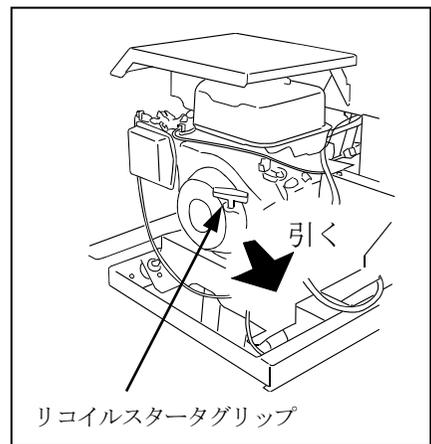
キースイッチにキーを差し込み、キーを「始動」位置まで回転します。エンジンが始動したら、直ちにキーから手を放します。

セルモータが回らない場合、リコイルスタートで始動することができます。



<リコイルスタートの場合>

キースイッチにキーを差し込み、キーを「入」位置に回します。この状態でリコイルスタートグリップを勢いよく引きます。このとき、リコイルスタートグリップは、最大まで引ききらないようにしてください。引いた後は、ゆっくりと元の位置まで戻します。



重要

- エンジンを始動する際、緊急停止スイッチが「運転」位置であることを確認してください。「停止」位置の場合、セルモータは回りますが、エンジンは始動しません。（本書24ページ参）

重要

- エンジンのセルモータは大電流を消費します。セルモータを5秒以上回すことは避けてください。連続使用した場合、セルモータが破損します。なお、5秒以内に始動しない場合は、10秒以上待機してから再操作してください。
- 本機は安全性確保のため、始動安全装置を備えています。セル始動の場合、走行クラッチレバーが「走行」位置では、エンジンは始動しない構成となっています。
※ただし、リコイルスタートによる始動の場合は、レバーの位置に関係なくエンジンが始動します。始動前は、走行レバーを「中立」位置にし、必ず走行クラッチレバーを「駐車」位置にしてください。
- エンジン運転中は、キーを「始動」位置に回さないでください。セルモータが破損します。
- エンジンの暖機運転をせず、走行および作業を開始した場合、エンジンの寿命が短くなります。3～5分程度の暖機運転を行なってください。

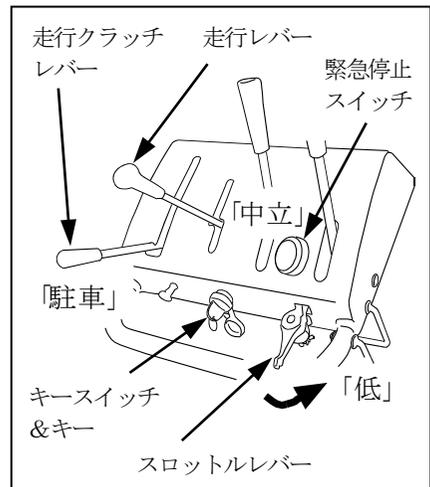
■エンジンの停止



警告

●エンジンに触れると火傷をするおそれがあります。エンジン停止後、冷めるまでは触らないでください。

- (1) 走行レバーを「中立」位置にし、走行クラッチレバーを「駐車」位置にします。
- (2) スロットルレバーを「低」位置にします。
- (3) キーを「切」位置に回します（エンジンが停止します）。



重要

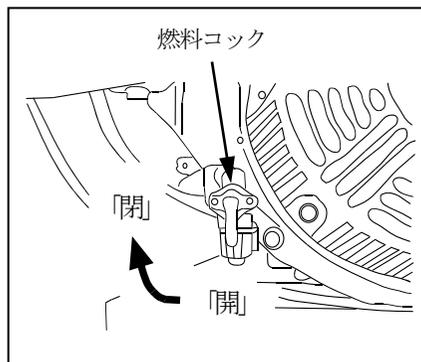
- エンジンは、高回転のまま停止しないでください。
- 長時間の運転後、または過熱状態でエンジンを停止させた場合、アフターバーンが発生します。アイドリング回転で3～5分程度待機した後、エンジンを停止してください。

運転のしかた

- 重要** ●キースイッチが「入」位置のままだとバッテリーの電力を消費します。エンジン停止後は、キーを「切」位置まで回し、抜き取ってください。

(4) 燃料コックを閉じます。

- 重要** ●万一、エンジンが停止しない場合は、燃料コックを閉じて（燃料供給停止）エンジンが停止するまで監視してください。



走行のしかた

■発進と走行のしかた

- ⚠危険**
- 路肩付近や軟弱地では転落・転倒のおそれがあります。十分注意して使用してください。
 - 進行方向の安全を常に確認してください。特に後進の際は、障害物に挟まれるおそれがあります。
 - 空荷（無積載）状態で走行する際は、歩行運転を行なってください。車体前方が浮き上がることもあるため大変危険です。

- ⚠警告**
- エンジン運転中に回転部（ベルト、プーリなど）に触れるとケガをします。絶対に触れないでください。
 - 急発進操作は禁止です。傷害事故に繋がるおそれがあります。また、HSTの故障の原因となります。
 - 立ち乗り運転中は、ハンドルグリップをしっかりと握ってください。速度調節や進路を微調整する際、転倒するおそれがあります。

- ⚠注意**
- 歩行運転の際は、ステップを収納（折りたたむ）してください。

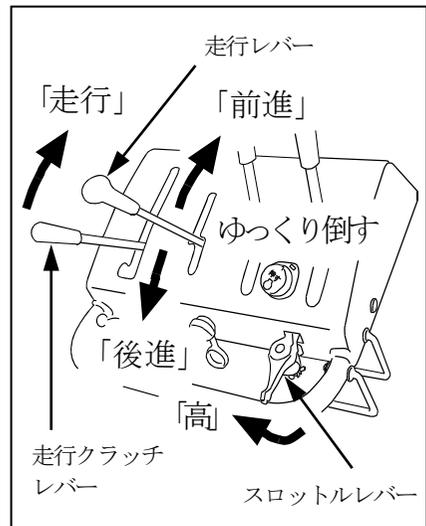
- (1) エンジンを始動します。（本書34～36ページ参照）
- (2) スロットルレバーを「高」位置にします。
- (3) 走行クラッチレバーを「走行」位置にします。
- (4) 走行レバーをゆっくり倒します。

<前進>

走行レバーを「前進」方向に倒します。

<後進>

走行レバーを「中立」位置の右側に倒しながら「後進」方向に倒します。



- 重要**
- 走行レバーの倒す角度によって走行速度が変わります。ラベルの速度表示を目安にしてください。また、スロットルレバーでも速度調節が可能です。

■旋回のしかた

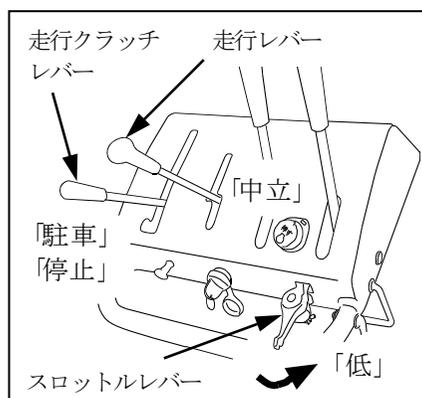
- 警告** ● 旋回するときはステップから降車し、歩行運転を行なってください。その際は、低速で行なってください。乗車状態や高速での旋回は、運転者および本機、積荷の転落・転倒に繋がるおそれがあるため大変危険です。

旋回のしかたについては、27, 41～44ページを参照してください。

■停車・駐車

- 警告** ● 停車の際は、必ず走行クラッチレバーを「停止」位置にしてください。
- 駐車および運転者が本機から離れる場合は、平坦な場所を選んでください。また、必ず走行クラッチレバーを「駐車」位置にし、走行レバーが「中立」位置であることを確認後、輪留めをしてください。更に、キースイッチからキーを抜き取ってください。
- 草やワラ、木くずなどの燃えやすいものの上に本機を停車または駐車させないでください。排気管やマフラーおよび排気ガスの熱により可燃物に引火し、火災の原因となります。
- 一時的に坂道で停止する場合は、走行レバーを「中立」位置にし、必ず走行クラッチレバーを「駐車」位置にした後、輪留めをしてください。
- 緊急時以外は、急ブレーキをかけたり、サイドクラッチレバーによる急停止操作（本書27ページ参照）は、行なわないでください。車体やギヤボックスに負荷がかかり、故障の原因となります。また、坂道では積荷の落下のおそれがあるため大変危険です。

- (1) 走行レバーを「中立」位置にします。
- (2) 走行クラッチレバーを「停止」または「駐車」位置にします。駐車する場合は、「駐車」位置にします。
- (3) スロットルレバーを「低」位置にします。
- (4) エンジンを停止します。（本書36, 37ページ参照）



■緊急停止後の再発進



警告

- 走行中、走行クラッチレバーを「停止」位置にして緊急停止させた場合、一度走行レバーを「中立」位置に戻してから再発進させてください。(本書38ページ参照)
- 緊急停止スイッチにて本機を停止させた場合、走行レバーを「中立」位置に戻し、走行クラッチレバーを「駐車」位置にしてからエンジン再始動および再発進させてください。

■圃場の条件

1. 湿田やぬかるんだ場所などの軟弱地では、足を踏み入れたときの沈み込みが8cm以下(本機を圃場に持ち込んだとき、沈み込みがトラックローラの中心位置以下)の場所で使用してください。

重要

- 足の沈み込みが8cmを超える軟弱地では、本機を使用しないでください。走行および旋回ができなくなるおそれがあります。
- 湿田やぬかるんだ場所で使用した後は、付着・堆積した泥、草を取り除いてください。

2. 畝立てした場所で畝をまたいで走行する際は、畝幅やベッド幅(畝天幅)が本機の走行部の幅と合っているか確認してください。また、畝高と車体本体の底面の位置関係を確認してください。

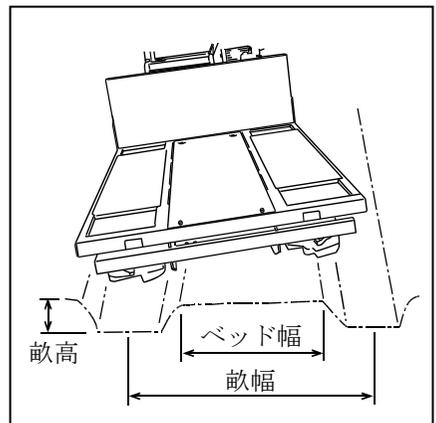
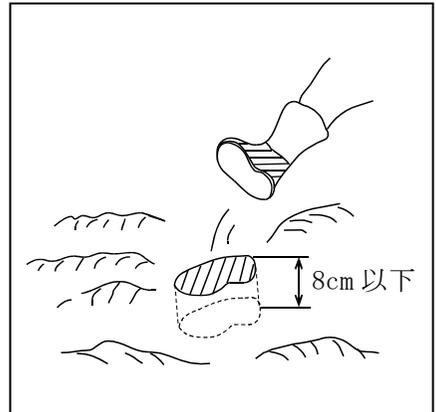


警告

- 畝幅が本機の走行部の幅と合っていない場合、傾いて走行します。積荷がある場合、落下するおそれがあるため大変危険です。

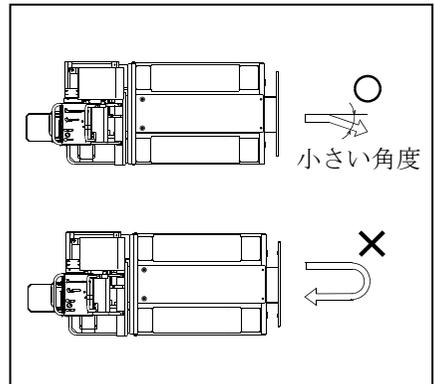
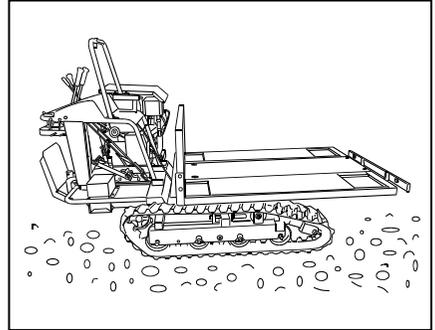
重要

- 畝高が高すぎる場合や傾いて走行している場合、本機が底づきし、破損するおそれがあります。

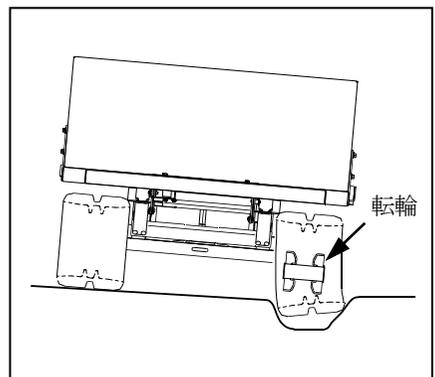


■ゴムクローラへの注意

- 重要** ● 鉄道の路線敷や砂利道のように小石がたくさんある場所で、その場旋回をした場合、ホイールプロケットおよび各転輪とクローラの中に小石が入り込み、破損するおそれがあります。急旋回や回転半径の小さい蛇行運転は行わず、直進または旋回角度の小さい方向転換にて運転するよう心がけてください。

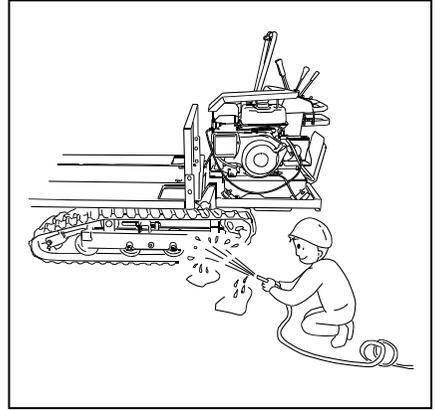


- 重要** ● 畝と作業通路の段差部分および轍や水の浸食によって溝が形成された場所などを走行しているとき、サイドクラッチレバーを操作することでクローラが転輪から外れ、脱輪するおそれがあります（脱輪する際に異音が発生する場合があります）。特に積荷を載せて後進している状況での発生確率が高いです。溝部分を走行しているときは、サイドクラッチレバーの操作はできるだけ避け、低速で走行し、高低差の小さい部分で脱出してください。



重要

- 湿田やぬかるんだ場所を走行した際、ホイルスプロケットおよび転輪に泥やワラなどの異物が付着・堆積している場合があります。水洗いで必ず取り除いてください。
- 走行部に付着・堆積した土や泥が乾いて固まってしまった場合、走行中にホイルスプロケットおよび転輪、クローラが破損・損傷するおそれがあります。
- 本機の使用後は、きれいに清掃してください。



■ 坂道の走行

危険

- 坂道や傾斜面を平行に走行する（車体の片側が傾く）場合は、歩行運転を行なってください。
- 坂道にて、走行クラッチレバーを「駐車」位置以外にして停車または駐車していた場合、車体が自然に動き出すおそれがあるため大変危険です。必ず走行クラッチレバーを「駐車」位置にしてください。
- 15°を超える坂道は、走行しないでください。空荷（無積載）状態で車体前方が斜面の上方側にあるとき、車体前方が浮き上がるため大変危険です。また、積荷を載せている際は、落下するおそれがあるため大変危険です。必ず守ってください。（本書46ページ参照）
- 万一、坂道走行中にエンジンが停止した場合、走行レバーを素早く「中立」位置にした後、走行クラッチレバーを「駐車」位置にしてください。操作しないままだと車体が下降し、転落や積荷が落下するおそれがあるため大変危険です。

警告

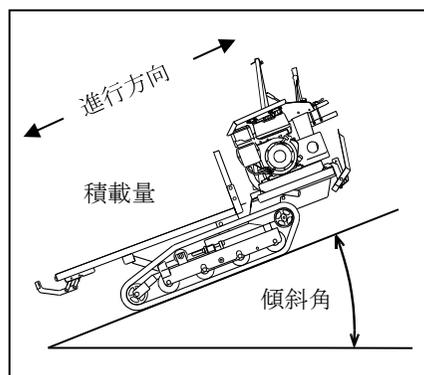
- 坂道では急旋回やUターンを行なわないでください。転倒のおそれがあります。

注意

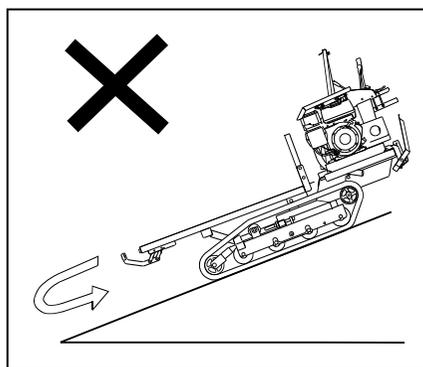
- 坂道は、状況に応じた安全な速度で走行してください。
- 下り坂での旋回は、平地での旋回よりも旋回半径が大きくなります。十分注意してください。

運転のしかた

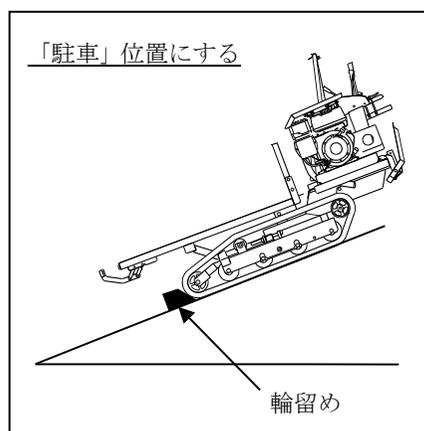
1. 本機には、安全に走行するために傾斜角および進行方向、積載量に制限があります。詳細については、本書46ページを参照してください。



2. 坂道では、必ず低速で走行してください。坂を下る際には、走行レバーで速度調節を行ない、ブレーキの使用は避けてください。また、坂道でのUターンは避けてください。



3. 一時的に坂道で停止する場合は、走行レバーを「中立」位置にし、必ず走行クラッチレバーを「駐車」位置にした後、輪留め（車輪止め）をしてください。



重要

- 登坂中に負荷が大きくなることでエンジン回転が低くなった場合、スロットルレバーを「高」側に回してください。改善しない場合は、走行レバーを低速側に倒してください。（本書25，26ページ参照）
- 坂道では、ステップと地面が接触することがあります。走行路の角度が変わる場所では、ステップを収納してください。

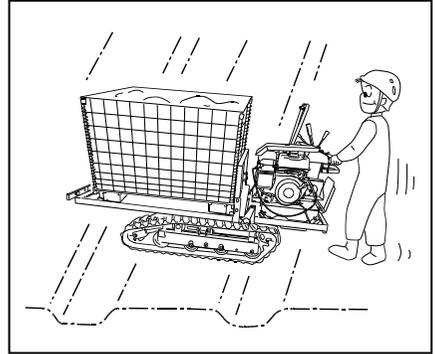
■ 畝を横断する（畝越え）走行



警告

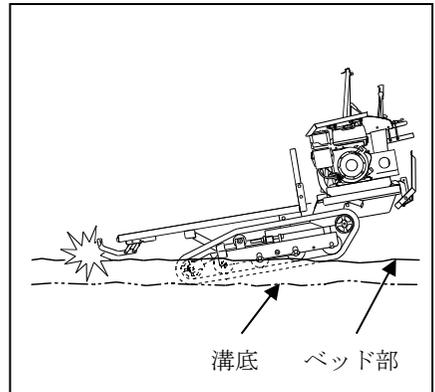
- 畝を横断する際は、歩行運転を行なってください。また、低速で走行してください。
- 積荷を載せている場合、旋回や頻繁な方向修正は避けてください。積荷が落下するおそれがあるため大変危険です。

畝の段差に対して直角に進入してください。その際、状況に応じて進入角度を調節してください。



重要

- 畝の横断やまたぐ際は、ベッド部（畝天部）と溝底部との高低差が小さい場所を走行してください。高低差が大きいと、本機のフロントデッドマンが地面に接触し、破損するおそれがあります。十分注意してください。

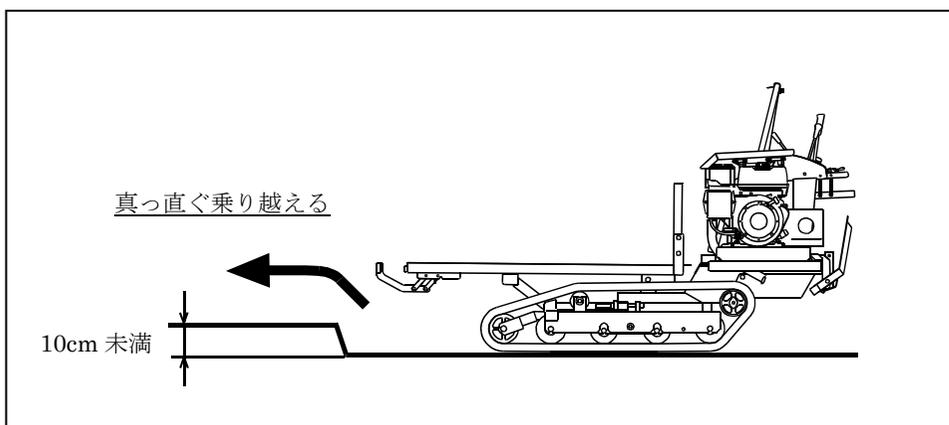


■その他の場所の走行

▲注意 ●溝の横断や畔越え、垂直に近い10cm以上の段差および圃場への出入りで急斜面を走行する際は、必ずアユミ板を使用してください。アユミ板の選定基準は、本書8ページを参照してください。

凹凸の場所の走行はできるだけ避け、本機に衝撃を与えないようにしてください。

垂直に近い10cm未満の段差は、段差に対して直角に乗り上げてください。上記の場所は、必ず低速で走行してください。



積載要領

■最大積載量

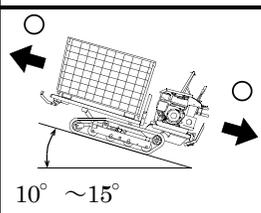
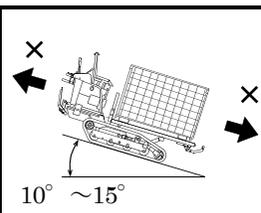
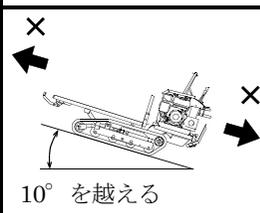
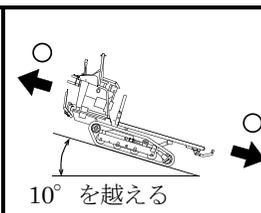
警告 ●最大積載量以上は、積載しないでください。転倒のおそれがあります。

重要 ●積載制限を超過して積載した場合、HSTオイルカップ（タンク）からオイルが噴出したり、HSTの破損に繋がります。必ず守ってください。

各条件での積載量を下表に示します。安全な作業を行なうためにも、必ず守ってください。

傾斜角と走行	進行方向	積載量
平坦地および10°未満の坂の登降	前後進可能	500kg以下
10°～15°の坂を上るとき	前進のみ可能	
10°～15°の坂を下るとき	後進のみ可能	
15°を超える坂の登降	走行不可	

注：空荷（無積載）状態で車体前方が斜面の上方側にあるとき、車体前方が浮き上がることがあります。空荷状態で傾斜10°を超える場合は、後進登坂または前進降坂を行なってください。

積載時		空荷（無積載時）	
			

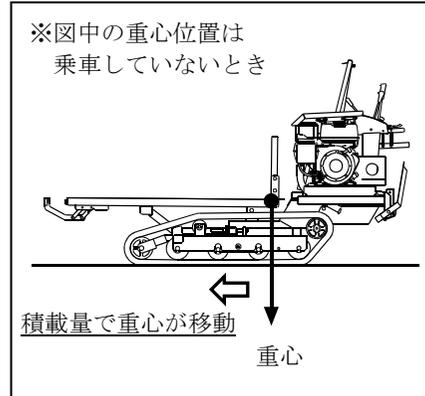
■車体バランス

危険 ●コンテナに収穫物を入れる際は、高く積み上げないでください。重心位置が高くなることでバランスが悪くなります。また、片寄った積み方をしないでください。旋回や段差を越える際に、コンテナの落下および車体が転倒するおそれがあります。

●走行路によって積荷全体のバランスが悪くなる場合があります。低速で安全な運転を行なってください。

運転のしかた

積荷全体の積載バランスを良くし、安全で効率の良い作業を行なってください。



- 重要**
- 荷物を載せると重心位置が車体前方側に移動します。注意してください。
 - 荷物を載せて走行するときは、積載量に応じてサイドクラッチレバーの操作荷重が変わります。十分注意して運搬してください。

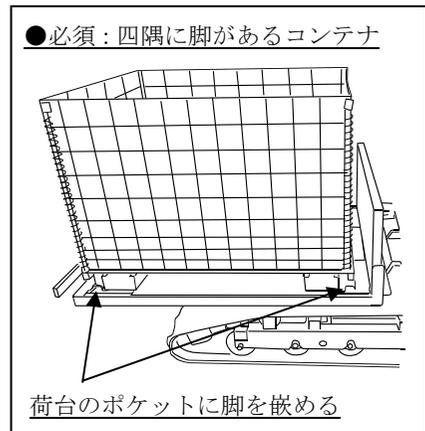
■コンテナの積み込み・積み降ろし

危険

- コンテナは、四隅に脚があるものを使用してください。更に、荷台の四隅のポケットに嵌るサイズのものを使用してください。コンテナのサイズが異なっていたり、載せる向きが違っていた場合、コンテナが落下するおそれがあるため大変危険です。
- フォークリフトにて荷台にコンテナを載せる際や降ろす際は、ステップから降車してください。特にコンテナを降ろすときは、車体前方が浮き上がるおそれがあるため大変危険です。
- 走行レバーを「中立」位置にした後、走行クラッチレバーを「駐車」位置にしてください。

1. コンテナは一般的に流通している以下のものを選定してください。

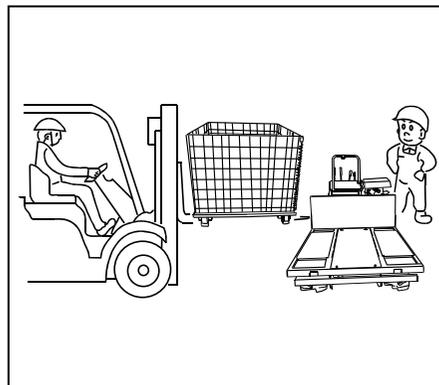
- 四隅に脚があるもの
- 荷台の四隅のポケットに嵌るサイズのもの



運転のしかた

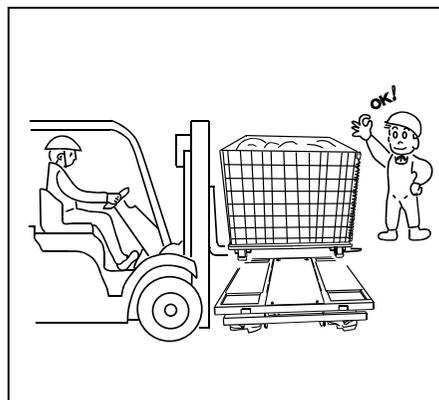
2. 荷台にコンテナを載せる際、コンテナが落下しないよう十分注意してください。落下した場合、傷害事故の原因となります。

- ステップおよび簡易シート（オプション）から降車してください。
- フォークリフト運転者は、周囲の安全の確認とコンテナの脚が荷台ポケットに嵌るよう積む作業を行なってください。
- 誘導者を配置する場合、本機周辺で安全な立ち位置を確保し、他の作業者を立ち入らせないことと、フォークリフト運転者に合図しながらコンテナの載せる位置を指示してください。



3. 荷台からコンテナを降ろす際、コンテナが落下しないよう十分注意してください。落下した場合、傷害事故の原因となります。

- ステップおよび簡易シート（オプション）から降車してください。乗車したままだと車体前方が浮き上がるおそれがあるため大変危険です。
- フォークリフト運転者は、周囲の安全の確認とコンテナのバランスを考慮し、降ろし作業を行なってください。
- 誘導者を配置する場合、本機周辺で安全な立ち位置を確保し、他の作業者を立ち入らせないことと、フォークリフト運転者に合図しながらコンテナをすくい上げる位置を指示してください。



点検のしかた

点検・整備

増し締め・・・作業前に各部位のボルト・ナットに緩みがないことを確認し、緩みがある場合は締め直してください。

警告 ●給油および点検・整備の際は、周囲の安全を確認してください。

①本機は平坦で地盤が硬く、明るく広い場所に停める。

②エンジンを停止する。

③走行クラッチレバーを「駐車」位置にする。

注：安全確認を行なわなかった場合、予期せぬ事故に繋がるおそれがあります。

<定期点検整備箇所一覧表>

事故の未然防止や本機を適正な状態で使用するために、必ず点検・整備を行なってください。

点検箇所	確認内容	点検時期（目安）				参照ページ	
		始業前	50h 毎	100h 毎	200h 毎		
本体・走行部	ギヤボックス	油量・汚れ		●初回のみ		●	51・52
	HST	油量・汚れ		●初回のみ	●		53・54
	ブレーキシュー	摩耗		○		●	63
	走行ベルト	伸び・亀裂	○				60
	走行クラッチレバー	作動	○				60
	走行レバー	作動	○				61・62
	サイドクラッチレバー	作動	○				61
	クローラ	伸び・亀裂	○				64
	転輪（各ローラ）	グリス量			◎		51
	各ワイヤ・ケーブル	伸び・亀裂	○				63
	各支点部	油・グリス量	○				—
	操作系ロッド支点部	油・グリス量	○				—
	バッテリー	液量	○				57～59
	デッドマンハンドル	機能の作動	○				28
	フロントデッドマン	機能の作動	○				28・63
	緊急停止スイッチ	作動	○				24
キースイッチ	作動	○				34～37	
ホーン	作動	○				25	
ステップ	亀裂・破損	○				29	

点検のしかた

< 定期点検整備箇所一覧表 >

○点検・調整 ◎給油 ●交換

点検箇所	確認内容	点検時期 (目安)				参照ページ
		始業前	25h 毎	100h 毎	200h 毎	
エンジン	エンジンオイル	油量・汚れ	○	●初回のみ	●	55
	エアクリーナ	汚れ	○		●	—
	点火プラグ	汚れ・劣化			○	—
	燃料コック	水だまり・目詰まり			○	55
	燃料ホース	燃料漏れ	○			—
エンジン関係の詳細については、「エンジン取扱説明書」を参照してください。						

- 重要**
- 湿田で使用後は、必ず転輪のグリスアップを行なってください。
 - 年に1回は、「お買いあげ先」にて点検・整備を受けてください。
 - HSTのオイル交換は、「お買いあげ先」にて行ってください。

< 注油・給油・補充箇所一覧表 >

給油・注油・注水箇所	種類	容量	参照ページ	
本体・走行部	ギヤボックス	ギヤオイル ・ API 規格 GL-5 ・ SAE 規格 80W-90	2.7L	51・52
	HST (油圧伝動)	ディーゼルエンジンオイル ・ JASO 規格 DH-1 ・ API 規格 CD 級以上 ・ SAE 規格 10W-30	オイルカップ (タンク) の底面より 5~10mm の高さまで	53・54
	トラックローラ	リチウム系一般グリス	適量	51
	アイドルローラ			
	アップローラ			
	イコライザ支点			
	注油指示部	ギヤオイルまたはリチウム系一般グリス	適量	—
バッテリー	蒸留水	適量	57~59	
エンジン	エンジンオイル	ガソリンエンジンオイル ・ API 規格 SE 級以上 ・ SAE 規格 10W-30	1.0L	55
	燃料	自動車用無鉛ガソリン(レギュラー)	6.0L	33・54

- 重要**
- 機械にとって潤滑油はとても大切なものです。給油をおろそかにすると機械が円滑に作動しなくなります。また、故障の原因となり寿命を短くします。常に点検・整備を行ない、早めの給油および交換を行なってください。
 - 給油および交換の際は、異物や水などが混入しないよう十分注意してください。
 - 寒冷地で本機を使用する場合は、地域の気温に適した油種を使用してください。

点検のしかた

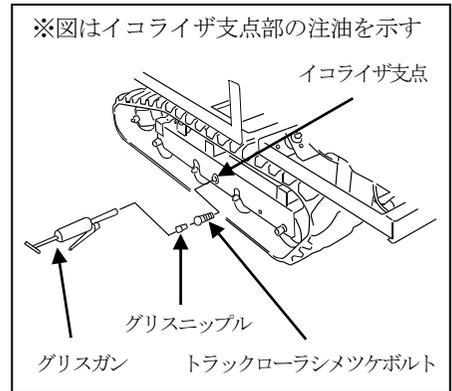
■注油・給油

1. 転輪の注油箇所

●トラックローラ、アイドルローラ、アップローラ、イコライザ支点

市販のグリスガンにて各転輪中央部のグリスニップルからグリスを注入してください。

イコライザ支点の注油は、同梱のトラックローラシメツケボルト、グリスニップルに組み替えてから行なってください。



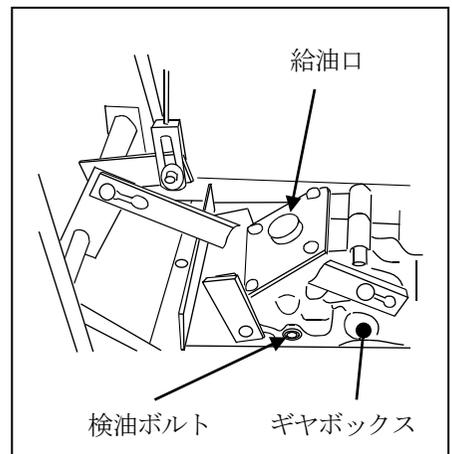
重要

- 出荷時点で各転輪にはグリスを充填しています。グリスを注入し過ぎた場合、転輪が回転しなくなるおそれがあります。グリスは入れ過ぎないでください。
- グリス注入量の目安は、手動式グリスガンで1～2回のレバー操作で構いません。このとき、グリスガンからグリスが出ていることを確認しておいてください。なお、エアー式グリスガンは、グリスが入り過ぎるおそれがあるため使用しないでください。

2. ギヤボックスオイルの給油・交換

●給油

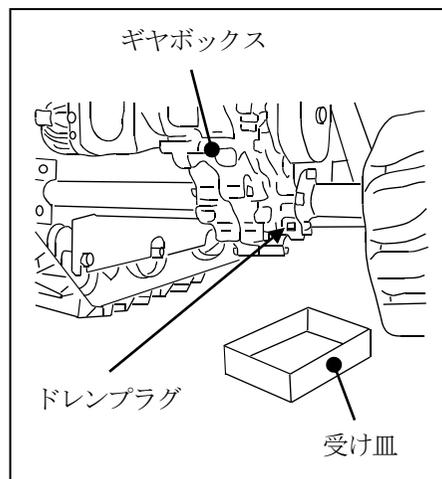
- (1) 車体を水平にします。
- (2) ギヤボックス右側面にある検油ボルトを外します。外した検油ボルトにシールテープを巻きます。
- (3) 給油口のキャップを外し、検油穴からオイルが流れ出るまで給油します。
- (4) 給油後、検油ボルトと給油口のキャップを元の位置に取り付けます。
- (5) 流れ出たオイルは、きれいに拭き取ります。



点検のしかた

●交換

- (1) 車体を水平にします。
- (2) ステップとアンダーガードを外します。
- (3) 廃油用の受け皿を用意し、ギヤボックスの下にセットします。
- (4) 給油口のキャップとギヤボックス下部のドレンプラグを外し、オイルを廃油用の受け皿に排出します。
- (5) オイル排出後、ドレンプラグにシールテープを巻き直し、元の位置に取り付けます。
- (6) 検油ボルトを外し、検油穴からオイルが流れ出るまで給油します。外した検油ボルトにシールテープを巻きます（巻き直す）。
- (7) 給油後、検油ボルトと給油口のキャップを元の位置に取り付けます。
- (8) オイルは、きれいに拭き取ります。



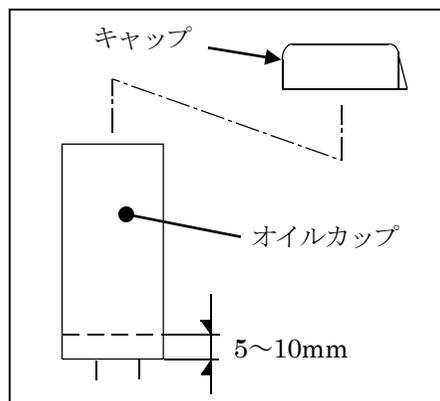
重要

- 廃油は、受け皿または廃液缶などに入れ、適切に処理してください。なお、流出した場合は、すみやかに拭き取ってください。放置すると汚染の原因になります。
- 排出したオイル内に鉄粉の混入を発見した場合、ギヤボックス内部が破損しているおそれがあります。その際は、「お買いあげ先」にお問い合わせください。
- ギヤボックスのオイルは、気温や走行条件により給油口およびゴムキャップのエア抜き穴から漏れ出る場合があります。頻繁に点検してください。

3. HSTオイルの給油・交換

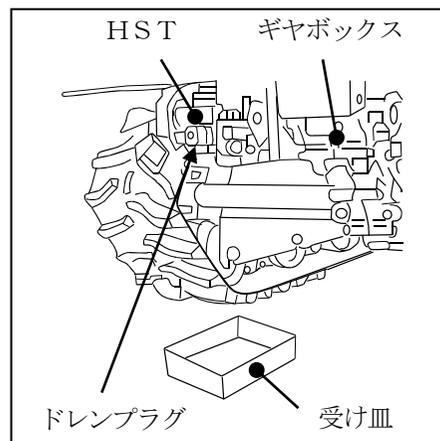
●給油

- (1) 車体を水平にします。
- (2) オイルカップ（タンク）のキャップを開け、カップ底面より5～10mmの高さまで給油します。
- (3) キャップを元の位置に取り付けます。



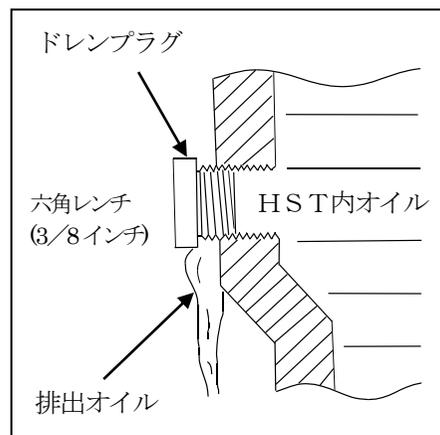
●交換

- (1) 車体を水平にします。
- (2) ステップとアンダーガードを外します。
- (3) 廃油用の受け皿を用意し、HSTの下にセットします。
- (4) オイルカップのキャップを開け、ドレンプラグを緩めます（外しません）。オイルを廃油用の受け皿に排出しますが、このときHST内にオイルが溜まり続けるよう補給しながら行ないます。



注：ドレンプラグを緩めるには、3/8インチの六角レンチが必要です。

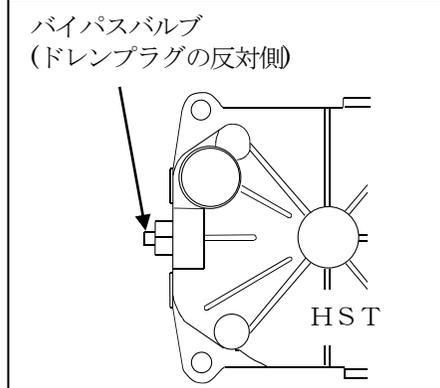
- (5) 排出しているオイルが、濁った色から新品のオイルの色に変わった際に、ドレンプラグを締めます。
- (6) オイル量がオイルカップの底面より5～10mmの高さになるよう補給または排出して、調整します。
- (7) キャップを元の位置に取り付けます。



点検のしかた

(8) H S Tのバイパスバルブ（手動式）を一回押し込みます。

※H S T内の主回路の両側（前進側と後進側）が直列に接続され、オイルが行き渡ります。＝オイル交換後の圧力損失が無くなり性能が発揮できます。



重要

- オイル交換中、H S T内に空気が入った場合、暴走のおそれやH S Tが作動しなくなるなど故障の原因となります。オイル交換には技量を必要としますので、「お買いあげ先」にて交換してください。
- 廃油は、受け皿または廃液缶などに入れ、適切に処理してください。なお、流出した場合は、すみやかに拭き取ってください。放置すると汚染の原因になります。
- 通常運転中は、バイパスバルブは押したままにしないでください。

■点検と清掃

⚠危険

- 火気厳禁。
- 給油の際は、必ずエンジンを停止してください。また、高温部が冷めてから給油してください。
- 燃料を給油するときは、くわえタバコや周囲で火気を扱うことは厳禁です。引火・爆発・火災の原因となります。
- 身体に帯電した静電気を除電（手を本機の金属部分に触れる）してから行なってください。引火し、火災の原因となります。

1. 燃料・・・自動車用無鉛ガソリン（レギュラー）

重要

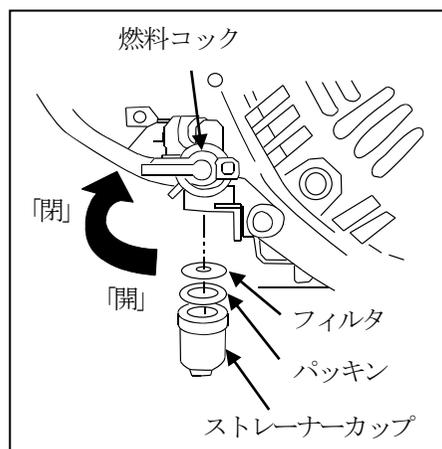
- 燃料タンク内に異物や水などが混入しないよう十分注意してください。
- 燃料キャップが確実に締まっていることを確認してください。

点検のしかた

2. ストレーナーカップ（フィルタポット）の清掃と交換

- 燃料中に含まれる異物や水などがストレーナーカップ内に沈殿していないか点検してください。

- (1) 燃料コックを閉じます。
- (2) ストレーナーカップ、パッキン、フィルタを取り外し、引火性の低いオイルクリーナで洗浄した後、エアブローにて乾燥させます。
- (3) 乾燥後、フィルタ、パッキン、ストレーナーカップに損傷が無いことを確認し、確実に取り付けます。異常がある場合は、交換します。



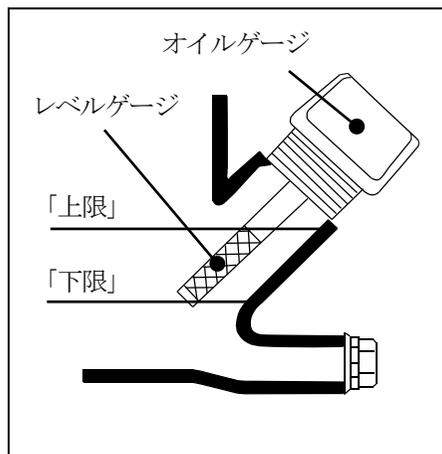
3. エンジンオイル

- オイル量がオイルゲージの規定範囲内にあることを点検してください。

- (1) 車体を水平にします。
- (2) オイルゲージを外し、レベルゲージ部分をきれいに拭きます。このとき、オイルに汚れがある場合は、交換します。
- (3) オイルゲージを差し込み、再度外します。オイル量がレベルゲージの「上限」と「下限」の間にあることを確認します。「下限」以下の場合は、「上限」位置まで給油します。

注：オイルゲージは、ねじ込みません。

- (4) 確認または給油後、オイルゲージを元の位置にねじ込みます。



重要 ●エンジンオイルは、「上限」以上に入れないでください。

※オイル交換、エアクリーナの清掃などエンジンの保守点検については、別冊で添付しております「エンジン取扱説明書」をご確認ください。

電気系統の点検と清掃

■電気配線の点検と清掃

⚠危険 ●配線の端子や接続部の緩みおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）、漏電の原因となり、更には火災事故に繋がるおそれがあるため大変危険です。損傷している配線は、すみやかに修理、交換を行なってください。

⚠注意 ●バッテリー、電気配線およびマフラーやエンジン周辺部に付着した可燃物、ゴミなどは取り除いてください。火災の原因となるおそれがあります。
●年に1回は、「お買いあげ先」にて点検・整備を受けてください。

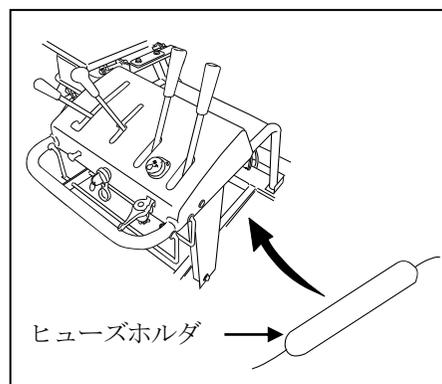
下記内容について、定期点検を行なってください。

- (1) 配線に損傷がないことを確認します。配線被覆が破れている場合は、絶縁テープを巻いて補修します。
- (2) 配線のクランプに緩みがないことを確認します。配線がクランプから外れている場合は、所定のクランプにて配線を結束します。
- (3) ターミナル、カプラの接続に緩みがないことを確認します。
- (4) 各スイッチが作動することを確認します。

重要 ●バッテリーおよびエンジン周辺の電気配線、電装部品などに高圧水をかけないでください。電気部品の故障の原因となります。

■ヒューズの取り扱い

ヒューズは、ヒューズホルダの中に入っています。ヒューズが切れた際は、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。大容量のヒューズを取り付けた場合、焼損の原因となります。



重要

- ヒューズが切れた際、切れた原因を調査し、対処を行なってください。対処後、同じ容量のヒューズと交換してください。絶対に針金や金属配線などで代用しないでください。

■バッテリーの点検と取り扱い

危険

- 充電中は水素ガスが発生しており、引火爆発するおそれがあります。ショートやスパークさせたり、タバコおよびライターなどの火気を近づけないこと、ならびに身体に帯電した静電気を除電してください。また、充電は風通しの良い場所にて補水キャップを外してから行なってください。

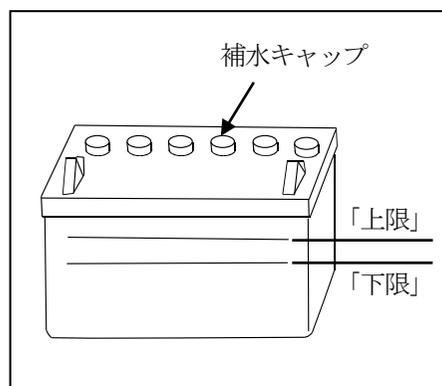
警告

- バッテリーの液量が、バッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下の状態で使用および充電され続けた場合、バッテリー容器内の各部位の劣化が促進され、寿命を縮めるほか、破裂、爆発の原因となるため大変危険です。
 - バッテリー液（電解液）は希硫酸（劇物）であり、大変危険です。
 - ・硫酸ミストまたは蒸気を吸入した場合、ただちに新鮮な空気が得られる場所に移動してください。
 - ・体や衣服に付着した場合、ただちに汚染された衣類を脱ぎ、皮膚をきれいな流水で洗ってください。
 - ・眼に入った場合、ただちにきれいな流水で15分以上洗い続けてください。
- なお、応急処置後は医師の治療を受けてください。

- 注意**
- バッテリー端子を取り外す際は、必ずマイナス端子を先に外してください。バッテリー端子を取り付ける際は、必ずプラス端子を先に取り付けてください。また、プラス端子とマイナス端子を同時に直接触れないでください。感電するおそれがあります。
 - ブースタケーブルを用いてエンジン始動する際は、ブースタケーブル付属の取扱説明書をよく読んで適切に取り扱ってください。

1. バッテリーの液量点検

- バッテリーを水平にし、バッテリー液が液面レベルの上限線から下限線の間にあることを確認してください。
- バッテリー液が不足している場合は、補水キャップを取り外し、6箇所セル毎にそれぞれ蒸留水を補充してください。このとき、液面レベルの上限以上に補充しないでください。



2. バッテリーの取り扱い

- 気温が低下することでバッテリーの性能も低下します。特に冬季はバッテリーの管理を行なってください。
- バッテリーは使用していなくても自己放電します。定期的に補充電を行なってください。

<充電の目安>

夏季・・・1ヵ月毎

冬季・・・2ヵ月毎

- 本機を長期格納する際は、バッテリーを取り外してください。取り外したバッテリーは、日光の当たらない乾燥した場所にて保管してください。やむを得ず本機に取り付けた状態で保管する場合は、必ずマイナス端子を外してください。
- 新品のバッテリーと交換する際は、必ず指定型式のバッテリーを使用してください。(本書ページ75参照)

重要

- バッテリーを充電する際は、必ず本機から取り外してください。電装部品および配線の損傷に繋がるおそれがあります。
- バッテリーの急速充電は、できるだけ控えてください。急速充電は、短時間に大電流で充電を行なうため、バッテリーの寿命を短くするおそれがあります。
- バッテリーの充電は、使用する充電器の取扱説明書の指示に従って行ってください（バッテリーの ⊕ を充電器の ⊕ 側に、⊖ を充電器の ⊖ 側に接続してください）。
- バッテリーを交換した際、不要になったバッテリーの廃棄は「リサイクル協力店」および廃棄物処理業者に依頼されるか、または「お買いあげ先」にお問い合わせください。

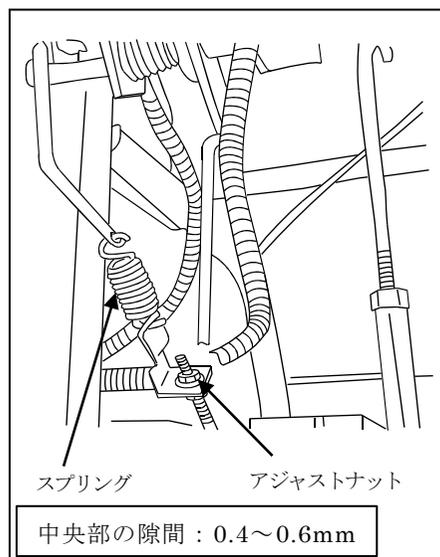
各部の調整

警告 ●各部の点検・調整を行なう際は、必ずエンジンを停止し、平坦で地盤が硬く、明るく広い場所にて行なってください。ただし、エンジン始動を必要とする調整もあります。その際は、安全を十分確認してから行ってください。

■走行クラッチレバーの調整

走行クラッチレバーを「走行」位置にした際、ベルトがスリップし、動力の伝達が不十分なときは、下記の要領にて調整してください。

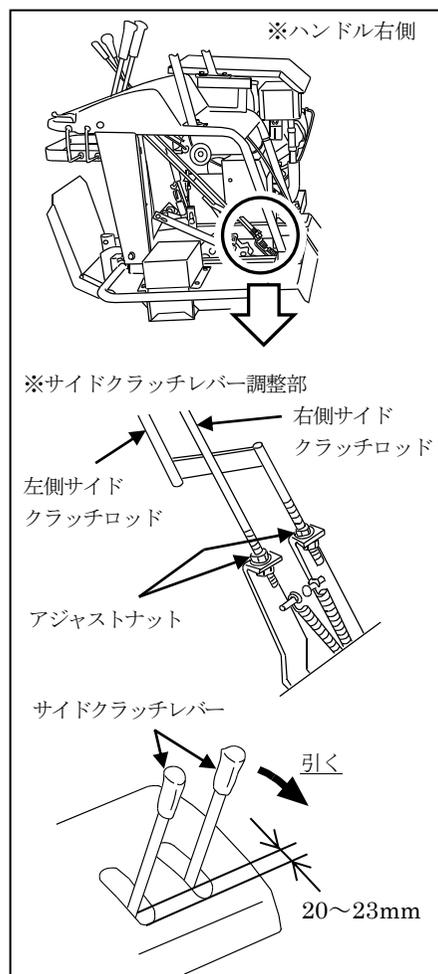
- (1) 走行クラッチレバーを「走行」位置にした状態でスプリング中央部の隙間が0.4～0.6mmになるようアジャストナットにて調整します。
- (2) 調整後、アジャストナットをしっかり締め付けます。
- (3) 締め付け後、再度スプリングの隙間を確認します。範囲外である場合は、再度調整を行ないます。



重要 ●走行クラッチレバーの調整が適正でない場合、走行クラッチレバーを「走行」位置にしても走行できないことや坂道で暴走するおそれがあります。運転前には、必ずベルトの摩耗や損傷および動力伝達状態の点検を行なってください。

■サイドクラッチレバーの調整

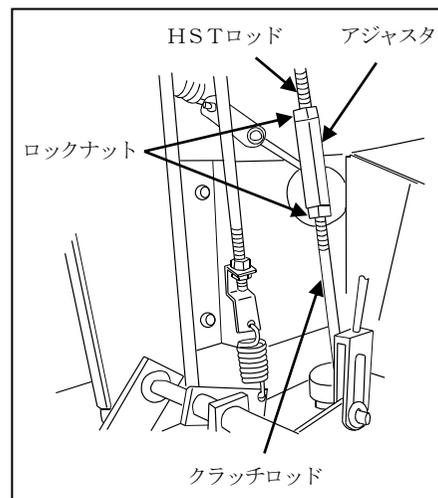
- (1) 本機を前後進させ、ギヤボックス内のサイドクラッチギヤが噛み合っている状態します（サイドクラッチレバーが手前に深く引ける状態）。
- (2) サイドクラッチレバーを手前に引いたとき、サイドクラッチレバーとガイド溝との隙間が20～23mmになるようサイドクラッチロッドのアジャストナットにて調整します。
- (3) 調整後、アジャストナットをしっかり締め付けます。
- (4) 締め付け後、左右のサイドクラッチレバーを手前に引いたとき、同等の位置であることを確認します。



■走行レバーの「中立」位置の調整

走行レバーを「中立」位置にしても車体が前進または後進するときは、下記の要領にて調整してください。

- (1) 平坦地にてエンジンを始動します。
- (2) アジャスタ両端のロックナットを緩めます。
- (3) 走行レバーを「中立」位置にし、走行クラッチレバーを「走行」位置にします。
- (4) 車体が停止する位置までアジャスタを調整します（回します）。



点検のしかた

- (5) 車体の停止後、走行レバーにて低速で前後進させ、再び「中立」位置に戻します。このとき、車体が停止することを確認します。
- (6) アジャスタが回らないよう固定し、ロックナットにてしっかり締め付けます。
- (7) 走行レバーにて低速で前後進させ、「中立」位置に戻します。車体が停止することを確認します。

重要

- 調整後でも車体が微妙に動く（ずれが発生している）場合があります。その場合、前進側に進むように調整してください。
※できるだけ停止するように調整してください。

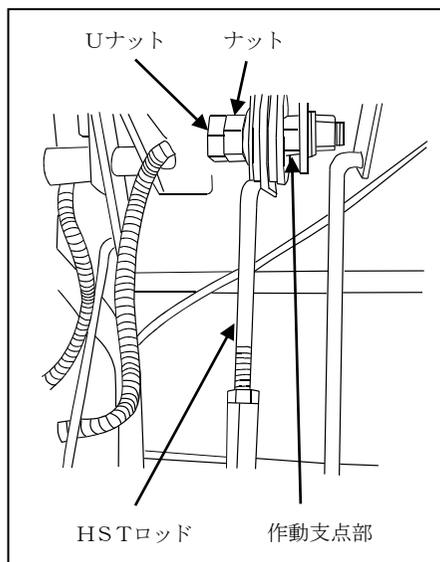
■走行レバーの動き調整

走行中に走行レバーが「中立」位置に戻ろうとする場合は、下記の要領にて調整してください。

- (1) 走行レバー作動支点部のUナット(M14)を緩め、内側のナット(M14)を締め込みます。
- (2) エンジンを始動し、前進最高速で走行中に旋回します。このとき、走行レバーが自然に「中立」位置に戻らないことを確認します。

注：締め過ぎた場合、走行レバーの操作荷重が重くなります。

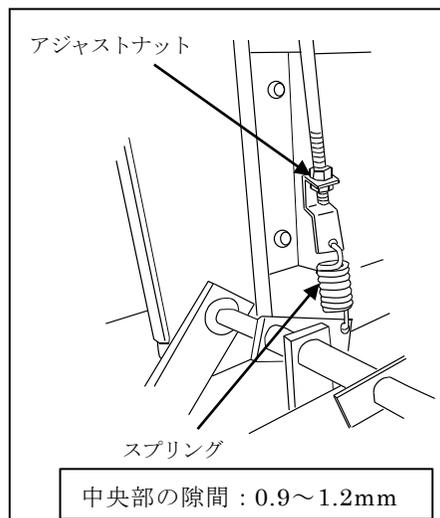
- (3) エンジンを停止し、Uナットをしっかりと締め付けます。
- (4) 走行レバーを「後進」位置に倒した後、デッドマンハンドルを前方に押します。このとき、走行レバーが「中立」位置または「中立」位置より若干前進側に倒れることを確認します。



■ブレーキの調整

本機は、走行クラッチレバーを「停止」位置より手前に引くことでブレーキが効きはじめる構成となっています（「ブレーキ」位置）。ブレーキの効力が低下した際は、下記の要領にて調整してください。

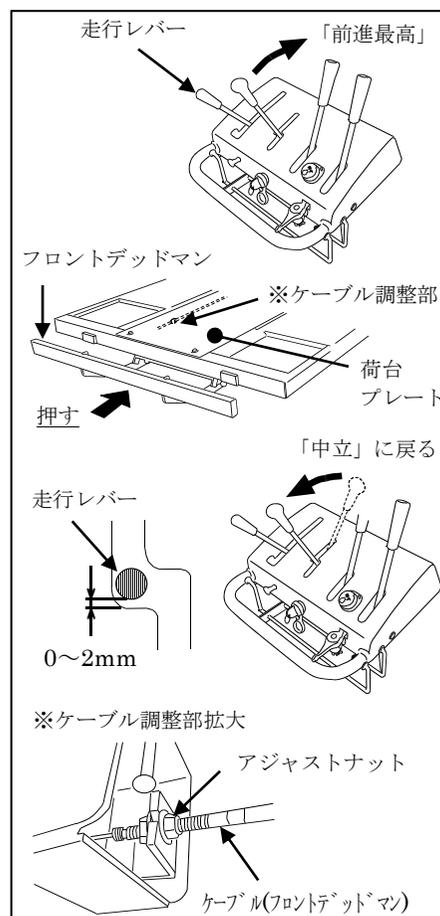
- (1) 走行クラッチレバーを「停止」位置より手前に最大まで引いた状態（ガイド溝に当てる）で、スプリング中央部の隙間が0.9～1.2mmになるようアジャストナットにて調整します。
- (2) 調整後、アジャストナットをしっかりと締め付けます。



■フロントデッドマンの調整

フロントデッドマンが勢いよく衝突した場合や交換した際、ならびに関連する構成部品を交換した際は、下記の要領にて調整してください。

- (1) 走行レバーを「前進最高」位置に倒します。
- (2) フロントデッドマンを勢いよく車体後方に押しします。
- (3) 走行レバーが「中立」位置に戻ることを確認します。このとき、走行レバーとガイド溝との隙間が0～2mmの範囲になるようアジャストナットにて調整します。
※アジャストナットは、荷台の右前方部にあります（荷台プレートを外します）。
- (4) 調整後、アジャストナットをしっかりと締め付けます。
- (5) 締め付け後、再度(1)～(3)を行ない、作動を確認します。

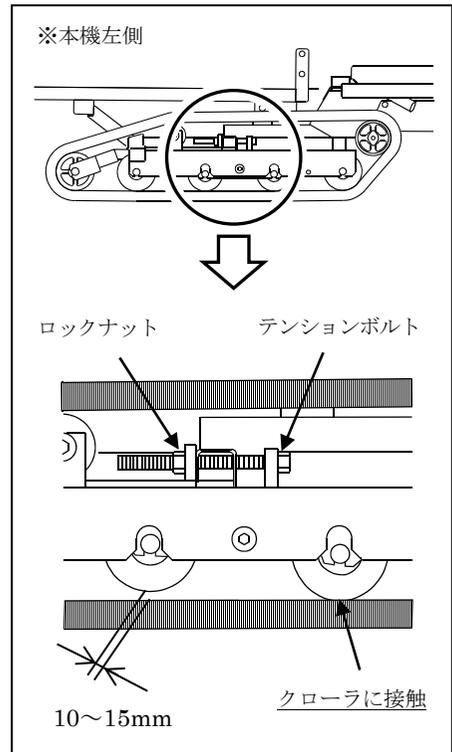


点検のしかた

■クローラの張り調整

クローラが初期伸びや摩耗によってたるみが発生した際は、クローラの張り調整を行なってください（左右実施）。

- (1) クローラを地面から離します（車体を持ち上げます）。
- (2) ロックナット（M20）を緩めます。
- (3) イコライザ転輪の後側をクローラの内面に接触させた際、前側の転輪とクローラ内面との距離が10～15mmになるようにテンションボルトにて調整します。
- (4) 調整後、ロックナットをしっかりと締め付けます。
[締付トルク：132.3～186.2 N・m]



重要

- クローラの張りが適正でない場合や損傷している場合、直進走行ができなかったり、ホイールスプロケットおよび転輪から外れることがあります。また、坂道で暴走するおそれがあります。運転前には、必ずクローラの状態を点検してください。

手入れと格納

⚠危険 ●火気のある場所に本機およびバッテリー、燃料などを保管しないでください。

⚠警告 ●作業終了後、本機にシートカバーを被せる場合は、高温部が十分冷めた状態で行なってください。熱いうちにシートカバーを被せた場合、火災の原因となります。

■日常の格納

日常の格納および短期間の格納は、以下の要領で行なってください。

- (1) 本機の使用後は清掃してください。特に埃や泥が付着した際は、洗車をしてください。
- (2) 燃料タンク内の錆防止のため、燃料は満タンにしておいてください。
- (3) できるだけ屋内に格納してください。
- (4) 走行クラッチレバーは、必ず「駐車」位置にしてください。また、走行レバーは、「中立」位置にしてください。
- (5) 厳寒時はバッテリーを取り外し、温かい屋内に保管してください。エンジンの始動性が向上します。

- 重要**
- 洗車の際、エンジン、樹脂部品、電装部品およびマーク貼付部には高圧水をかけないでください。高圧水をかけると本機の故障やマークの剥がれ、部品の変形に繋がります。
 - キースイッチからキーを抜き、保護キャップを被せてください。保護キャップを被せなかった場合、漏電の原因となります。

手入れと格納

■長期格納

長期間の格納は、以下の要領で行なってください。

- (1) 本機を丁寧に清掃してください。
- (2) 不具合箇所を整備してください。
- (3) エンジンオイルを新しいオイルに交換し、エンジンを始動させて5分程度アイドリング（低回転）で保持してください（オイルが循環するまで待機）。
- (4) 注油指示部、各支点部および摺動部は、必ず注油してください。
- (5) 各部のボルト・ナットの緩みを点検し、緩みがある場合は締め直してください。
- (6) 周辺に火気が無い場所に格納してください。また、雨風にさらされない乾燥した場所に格納してください。
- (7) 走行レバーは、「中立」位置にしてください。走行クラッチレバーは、「停止」位置にし、輪留め（車輪止め）を行なってください。
- (8) 燃料タンクおよび気化器（キャブレター）内の燃料を取り除いてください。その際に、こぼれた燃料は、よく拭き取ってください。
※燃料を取り除く作業については、「エンジン取扱説明書」を参照してください。
- (9) バッテリーを本機から取り外してください。取り外したバッテリーは、液面を点検し、補充電を行なった後、日光の当たらない乾燥した場所にて保管してください。やむを得ず本機に取り付けた状態で保管する場合は、必ずマイナス端子を外してください。

重要

- バッテリーを本機から取り外さない場合は、必ずバッテリーのマイナス端子を外してください。ネズミがケーブルをかじることでショートすることがあり、発火して火災の原因となることを防ぎます。
- キースイッチからキーを必ず抜き、保護キャップを被せてください。

■長期格納後の使用

長期格納後の使用は、以下の要領で行なってください。

- 始業点検を必ず行ない、本機を適正な状態にしてください。
- エンジンの寿命、性能を保つため、エンジン始動後はアイドリング（低回転）で5分程度の暖機運転を行なってください。

不調時の対応のしかた

重要 ●参照ページ欄に ※ マークがある項目については、「お買いあげ先」にお問い合わせください。

■エンジン部

故障状況	原因	処置	参照ページ
キースイッチを回してもセルモーターが回らない	●バッテリーの過放電	●バッテリーの充電 または交換	57～59
	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
	●ヒューズ切れ	●ヒューズの交換	57
	●キースイッチの故障	●キースイッチの交換	※
	●セルモーターの故障	●修理または交換	※
	●リミットスイッチの作動不良または故障	●リミットスイッチの調整または交換	※
	●走行クラッチレバーが「走行」位置になっている	●走行クラッチレバーを「停止」位置にする	26
セルモーターの回転があがらない	●バッテリーの過放電	●バッテリーの充電 または交換	57～59
	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
セルモーターは回るがエンジンがかからない	●混合気が薄い (空気の密度が濃い)	●チョークレバーを引く (空気の量を抑える)	25・ 34～36
	●燃料が供給されていない	●燃料コックを開ける	34
	●ストレーナーカップの詰まり	●ストレーナーカップの清掃 または交換	55
	●点火プラグの汚れまたは電極の摩耗	●点火プラグの清掃 または交換	エンジン 取説
	●気化器の詰まり	●気化器の清掃または交換	※
	●エンジン本体の不具合	●エンジンの修理 または交換	※
	●緊急停止スイッチが「停止」位置になっている	●緊急停止スイッチを「運転」位置にする	24
エンジン回転が不規則である	●ストレーナーカップの詰まり	●ストレーナーカップの清掃 または交換	55
	●燃料供給系統からの燃料漏れまたは空気の混入	●クランプ部の締め付け またはホース交換	※

不調時の対応のしかた

故障状況	原因	処置	参照ページ
エンジン回転が不規則である	●点火プラグの汚れまたは電極の摩耗	●点火プラグの清掃または交換	エンジン取説
	●気化器の詰まり	●サービス工場で清掃または交換	※
エンジンを低回転にすると停止する	●点火プラグの汚れまたは電極の摩耗	●点火プラグの清掃または交換	エンジン取説
	●気化器の詰まりおよび調整不良	●気化器の清掃または交換	※
	●スロットル位置のズレ	●スロットルの調整	※
エンジンが突然停止した	●燃料不足	●燃料の給油	33・54
	●エンジンオイル量の不足または品質不良	●エンジンオイルの給油または交換	55・エンジン取説
	●エンジンオイル量の不足または潤滑不良によるエンジン焼付	●エンジンの修理または交換	※
	●プラグキャップの緩み	●プラグキャップを適切に取り付ける	※
排気部から異常な煙がでる	●エアクリーナの詰まり	●エレメントの清掃または交換	エンジン取説
	●エンジンオイル量が多い	●適正量に調整する	55・エンジン取説
	●燃料の供給量不良	●気化器の調整	※
	●燃料が劣化している	●新しい燃料と入れ換える	—
エンジン出力不足	●過積載	●積載量を減らす	46
	●気化器の調整不良	●気化器の調整	※
	●点火プラグの汚れまたは電極の摩耗	●点火プラグの清掃または交換	エンジン取説
	●エンジンオイル量が不適正	●適正量に調整する	55・エンジン取説
	●エアクリーナの詰まり	●エレメントの清掃または交換	エンジン取説
	●エンジンオイルの汚れ	●エンジンオイルの交換	エンジン取説

不調時の対応のしかた

故障状況	原因	処置	参照ページ
エンジン出力不足	●燃料キャップのエア抜き部の詰まり	●キャップを取り外し、清掃または交換	—
	●エンジン本体の不具合	●エンジンの修理または交換	※
	●エンジンの過熱	●小休止	—
		●吸気部の清掃	エンジン取説

■ 走行部

故障状況	原因	処置	参照ページ
走行クラッチレバーを「走行」位置にすると車体が少し動く	●走行レバーの「中立」位置調整不良	●走行レバーの「中立」位置調整	61~62
走行レバーを「走行」位置にしても走行しない	●走行ベルトのスリップ	●走行クラッチレバーの調整	60
		●走行ベルトの交換	※
走行クラッチレバーを「停止」位置にしても止まらない	●サイドクラッチの抜け	●サイドクラッチレバーの調整	61
	●走行ベルトのつき回り	●走行クラッチレバーの調整	60
●ベルトストッパの調整		●ベルトストッパの調整	※
走行レバーを動作させると「ギヤー」または「ビー」という音が発生する（ただし故障ではありません）	●HSTへの過負荷（長時間続けるとHSTの寿命に影響することがあります）	●「ギヤー」・「ビー」音が連続して発生しないように注意して運転する ①スロットルレバーを「高」位置に回す ②走行レバーの急操作（急な倒し）を避ける	—
		●過積載	●積載量を減らす

不調時の対応のしかた

■ 荷台部

故障状況	原因	処置	参照ページ
フロントデッドマンが車体後方に押されても走行レバーが「中立」位置に戻らない	●フロントデッドマンの不具合	●修理または交換	※
	●フロントデッドマン作動関連の部品の脱落、変形および破損	●点検、修理または交換	※
	●ケーブル（フロントデッドマン）の調整不良	●ケーブルの調整	63

■ 乗車部

故障状況	原因	処置	参照ページ
ステップが収納できない	●スプリングが脱落または破損	●交換	※
	●ロック用のピンの破損	●修理または交換	※
ステップが傾く	●取り付け部の不具合	●ステップ関連部品の修理または交換	※

■ 電装関係

故障状況	原因	処置	参照ページ
バッテリーが充電されない	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
	●ヒューズ切れ	●ヒューズの交換	57
	●レギュレータ不良	●レギュレータの交換	※
	●エンジン発電不良	●エンジンの修理	※
	●バッテリーの機能不良	●バッテリー液の補充 またはバッテリーの交換	57~59
●接続部の緩みまたは腐食部の是正処置		—	
ホーンが鳴らない	●ホーンスイッチの故障	●ホーンスイッチの交換	※
	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
	●ヒューズ切れ	●ヒューズの交換	57
	●ホーンの損傷	●ホーンの交換	※

サービス資料

主要諸元

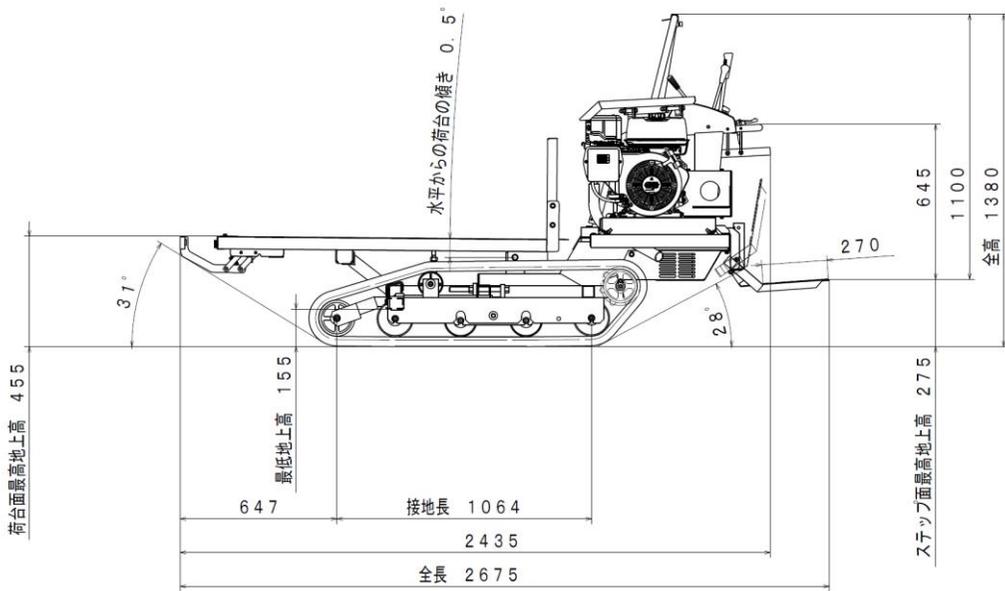
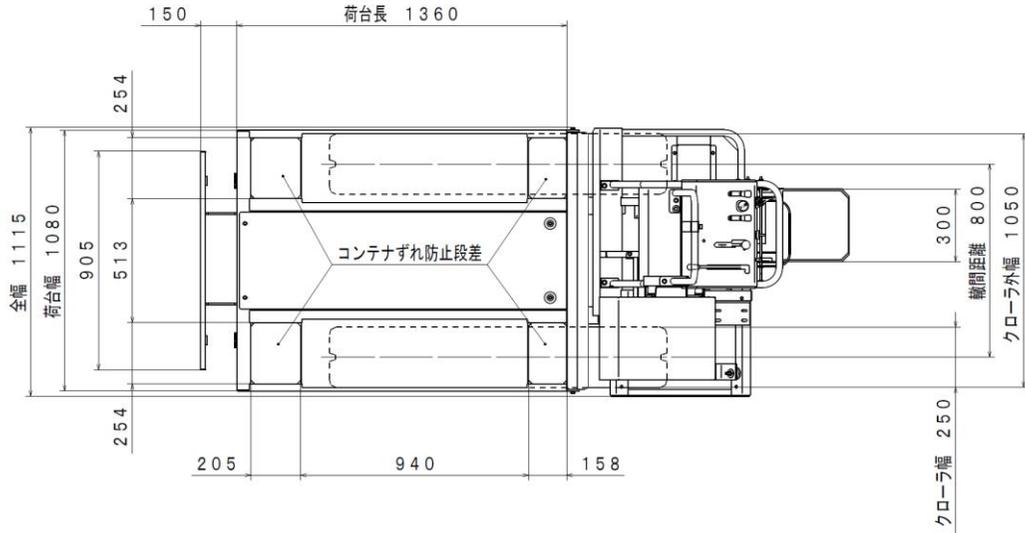
名 称		クローラ型コンテナ運搬車	
型 式		XVT500	
最大積載量 (kg)		500	
車 体 質 量 ・ 寸 法	質量 (kg)	410	
	全長 (mm)	2675	
	全幅 (mm)	1115	
	全高 (mm)	1380	
	最低地上高 (mm)	155	
最小回転半径 (mm)		1700	
荷 台	形状	コンテナずれ防止段差 (四隅脚置きポケット)	
	フォークリフト作業		積み降ろし対応可能
	寸法	外寸法 (長×幅) (mm)	1360×1080
		荷台面最高地上高 (mm)	455
		水平からの傾き (°)	0.5 ※荷台前方側が高い
走 行 部	走行形式		エンドレスゴムクローラ (後駆動)
	クローラサイズ 幅 (mm) × リンク数 × ピッチ (mm)		250 × 41 × 72
	操向形式		サイドクラッチ (爪噛み合い式)
	ブレーキ形式		内括式ドラムブレーキ (センターブレーキ)
	軸間距離 (mm)		800 (クローラ外幅: 1050)
	接地長 (mm)		1064
	最大積載時接地圧 (kPa [kgf/cm ²])		16.8 [0.171]
	変速方法		無段変速 (HST)
	走行速 (km/h)	前進	0 ~ 4.1 (最大積載時: 0 ~ 3.9)
		後進	0 ~ 2.9 (最大積載時: 0 ~ 2.8)
※ 登坂能力 (°)	前進	最大積載時: 15 (無積載時: 10)	
	後進	最大積載時: 10 (無積載時: 15)	
離反角度 (°)		28	

※坂道走行に制約あり。詳細は、本書46ページ参照。

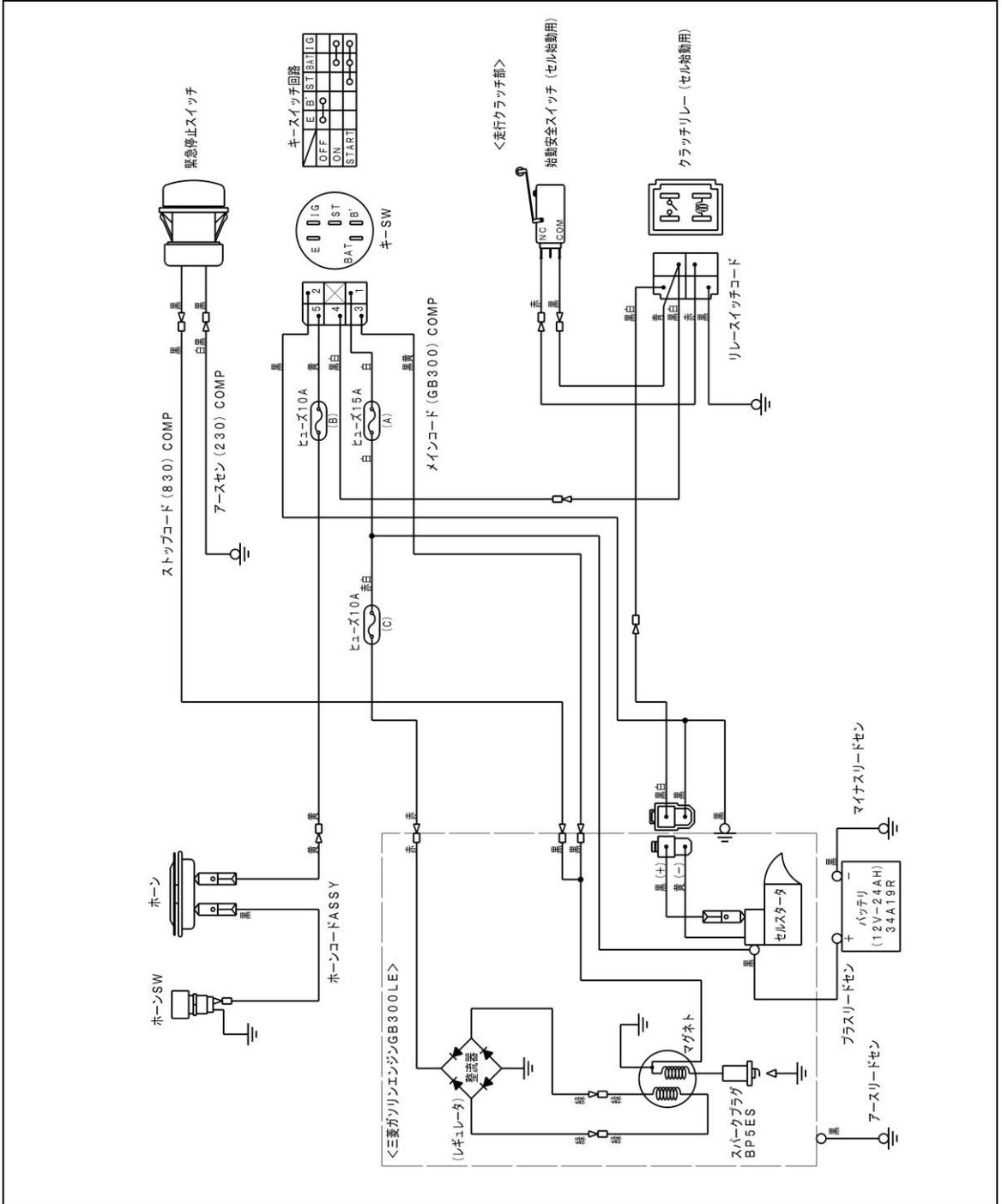
サービス資料

エンジン	型式 (メーカー)	GB300LE (三菱)	
	種類	空冷4サイクル1気筒OHV式ガソリンエンジン	
	総排気量 (L [cc])	0.296 [296]	
	出力 (kW[Ps]/rpm)	5.5 [7.5] / 1800 (最大 7.3 [10.0]) / 2000)	
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン (レギュラー)	
	燃料タンク容量 (L)	6.0	
	始動方式	リコイルスタータ、セルモータ 併用	
	点火プラグ	NGK BP5ES相当品	
潤滑油種・量 (L)	ガソリンエンジンオイル API規格 SE級以上、SAE規格 10W-30 1.0		
乗車部	ステップ	標準装備 (立ち乗り用ハンドルグリップ装備)	
		寸法 (長×幅) (mm)	270×300
		ステップ面最高地上高 (mm)	275
		収納	折りたたみ形式
	備考	簡易シート装着対応	
その他	非常停止装置	緊急停止スイッチ、デッドマンハンドル、フロントデッドマン	
	警音装置	ホーン (1個)	
	簡易シート	オプション	
	適用コンテナ	脚付きコンテナ	

外観図



配線図



注文部品の紹介

注文部品は、「お買いあげ先」にお問い合わせください。

注 文 部 品	部 品 名 称	部 品 番 号
簡易シート (着座運転用)	シート SET	0580-820-200-

主な消耗部品

消耗部品のご注文の際は、部品番号をお確かめのうえ、「お買いあげ先」にお問い合わせください。

構 成 品	使 用 箇 所	部 品 名 称	個/台	部 品 番 号
クローラ	走行部	クローラ (250×41×72)	2	0550-360-011-
ブレーキ	トランスミッション/ 内拡式ドラムブレーキ	ブレーキシューSET	1	0400-102-300-
走行ベルト	走行伝動部	コグベルト (SB40HP4)	1	0550-820-014-
ケーブル	スロットル	ケーブル(スロットル)	1	0550-641-011-
	チョーク	ケーブル(チョーク)	1	0560-641-011-
	フロントデッドマン	ケーブル(フロントデッドマン)	1	0580-260-011-
ヒューズ	メインコード (配線図:本書74ページ)	ヒューズカン (15A)	1	P115-430-301-
		ヒューズカン (10A)	2	P115-430-302-
バッテリー	蓄電	バッテリー 34A (Y) (型式: 34A19R)	1	0453-454-011-
エンジン	エアクリーナ部	スポンジフィルタ	1	(KA40100AA)
		ペーパーフィルタ	1	(KA40101AA)
	燃料コック～気化器	燃料ホース	1	(P051Y04X220)
	燃料タンク～ 燃料コック	燃料ホース	1	(P051Y08X470)
	点火部	点火プラグ (NGK BP5ES 相当品)	1	(KE41023AC)

部品番号：()はエンジンメーカーの部品番号

索引

あ	アユミ板……………	7~8・11・45	か	グリス……………	50~51
	安全な作業をするために…	1~17		クローラの張り調整……	64
	安全表示ラベル			警告表示について…………	iv
	について……………	18		ゴムクローラへの注意……	41~42
	安全表示ラベル			コンテナずれ防止段差……	30
	貼付位置……………	18~21		コンテナの積み込み・	
	畝高……………	40		積み降ろし……………	47~48
	畝幅……………	40	さ	サービスネット……………	22
	畝を横断する走行……………	44		最大乗車重量……………	29
	運転者の条件……………	1		最大積載量……………	46
	運転と作業……………	9~13		サイドクラッチレバー……	27
	運転前の点検について……	31~32		サイドクラッチレバーの	
	HSTオイル	49~50		調整……………	61
	HSTオイルの給油・			坂道の走行……………	42~43
	交換……………	53~54		作業環境への対応……………	2
	エンジンオイル……………	50・55		作業前の確認……………	2~3
	エンジン型式……………	22		始業点検……………	31~32
	エンジンの始動と			車体バランス……………	46~47
	停止のしかた……………	33~37		重要安全ポイント	
	エンジンの始動と発進……	3		について……………	凡例
	主な消耗部品……………	75		重要なお知らせ……………	i ~ ii
か	外観図……………	73		主要諸元……………	71~72
	各部の調整……………	60~64		新車の保証……………	22
	各部の名称……………	23		スイッチおよび操作レバー	
	型式について……………	iii		の名称とはたらき……	24~27
	寒冷地……………	50		ステップ……………	29
	キースイッチ……………	24・65		ストレーナーカップの	
	ギヤボックスオイルの			清掃と交換……………	55
	給油・交換……………	51~52		スロットルレバー……………	25
	緊急停止後の再発進……	40		製造番号……………	22
	緊急停止スイッチ……………	24		積載要領……………	46~48
				旋回のしかた……………	39・41~44

索引

さ	洗車	18・42・65	は	配線図	74
	走行クラッチレバー	26		発進と走行のしかた	38
	走行クラッチレバーの 調整	60		バッテリー型式	75
	走行する場合	4~7		バッテリーの液量点検	58
	走行レバー	26		バッテリーの点検と 取り扱い	57~59
	走行レバーの動き調整	62		ハンドルグリップ	12・38
	走行レバーの 「中立」位置の調整	61~62		販売型式	22
	その他の場所の走行	45		ヒューズの取り扱い	57
				ブースタケーブル 使用時の注意事項	17
				服装	1
た	立ち乗り運転	12・38	不調時の対応のしかた	67~70	
	注文部品の紹介	75	ブレーキの調整	63	
	注油・給油・補充 箇所一覧表	50	フロントデッドマン	28	
	長期格納	66	フロントデッドマンの 調整	63	
	長期格納後の使用	66	ホーンスイッチ	25	
	チョークレバー	25	保管と格納	15~16	
	定期点検整備箇所一覧表	49~50	ポケット	30・47~48	
	停車・駐車	39	歩行運転	4・38~39 42・44	
	手入れと格納	65~66	補修用部品の供給年限 について	22	
	デッドマンハンドル	28	保証とサービス	22	
	電気配線の点検と清掃	56	圃場内作業車	iv・9	
	点検・整備	13~14・ 49~59	圃場の条件	40	
	点検と清掃	54~55			
	電装品の取り扱い	16~17			
	転輪の注油箇所	51			
	トラックへの積み込み・ 積み降ろし	7~8	ら	リコイルスタート	35~36
	な	日常の格納	65	わ	輪留め（車輪止め）
燃料コック		8・34・37			
燃料の給油		33・54			

困ったことや、ご不明点があれば下記までご連絡ください。

販売店	_____		
住所〒	—	_____	
TEL	—	—	_____
担当；	_____		

型 式 名	_____
製造番号	_____

※ご使用になる前にメモしておく、修理を依頼されるときに役立ちます。

豊かさを創造し、未来へ挑戦する 株式会社アテックス

本 社	愛媛県松山市衣山1丁目2-5	〒791-8524
	TEL (089)924-7161 (代) FAX (089)925-0771	
	TEL (089)924-7162 (営業直通)	
	ホームページ https://atexnet.co.jp	
東 北 営 業 所	岩手県花巻市北湯口第2地割1-14	〒025-0301
	TEL (0198)29-6322 (代) FAX (0198)29-6323	
関 東 支 店	茨城県猿島郡五霞町元栗橋6633	〒306-0313
	TEL (0280)84-4231 (代) FAX (0280)84-4233	
中 部 営 業 所	岐阜県大垣市本今5丁目128	〒503-0931
	TEL (0584)89-8141 (代) FAX (0584)89-8155	
中 四 国 支 店	愛媛県松山市衣山1丁目2-5	〒791-8524
	TEL (089)924-7162 FAX (089)925-0771	
九 州 営 業 所	熊本県菊池郡菊陽町大字原水1156-17	〒869-1102
	TEL (096)292-3076 (代) FAX (096)292-3423	
部 品 セ ン タ ー	愛媛県松山市馬木町899-6	〒799-2655
	TEL (089)979-5910 (代) FAX (089)979-5950	

部品コード	0580-940-001-0
-------	----------------